

青杵：①層の色調に関する部分

149のエビデンス (2/10)

作成日 2022/3/28 作成者 [Redacted] 確認者 [Redacted] 確認日 2022.3.28

スケッチ名: 0-1トレンチ 1-1ビット北面 1/20 ①記事		スケッチ原図(第四系)										スケッチ原図(基盤岩)				
No.	地層の特徴に関する記事	適正化すべき記事内容	地質の特徴										色調	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由		
			地質名	・粒度構成、礫の形状、粒径、堆積、埋り具合	・礫の酸化	・含有物(有機質、貝殻など)	・その他、断面に異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。	地層構造	・地層境界の整合・不整合、埋積構造	・埋積構造	・堆積、炭埋、結晶	土質化など、地層構造・地層境界を示すもの			地質名	風化・変質
	淡黄褐色(7.5YR7/3)の砂礫主体である。 1) 標準30~60%で、径20cm以下を主体とし最大径40cmの歪角礫からなる。 2) 泥は少ない。 3) 高質は中~極粗粒砂からなる。	淡黄褐色(7.5YR8/3)の砂礫主体である。 標準30~60%で、径20cm以下を主体とし最大径40cmの歪角礫からなる。 泥は少ない。 高質は中~極粗粒砂からなる。	○	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	色調(淡黄褐色)と色調を示す記号(7.5YR7/3)が整合していない。断面写真も確認。色調(淡黄褐色)が正しく色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
Q ₂	風化花崗岩: 淡黄褐色(7.5YR8/4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	○	-	
No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯										色調	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由		
			破砕帯区分(H ₁ ~H ₄)	破砕部の性状 ・破砕部の種類 ・破砕部内物質 ・破砕 ・破砕部の連続性・連続性 ・浸透組織が認められる岩片を主体とし高質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・線状構造、適合面積 ・浸透構造、破目、収縮など	断面区分 ・断面がクワジ、断面角部、カクレーサイ ・断面に記号	破砕種 ・角部(実測できる場合)	最新活動部 (認定した場合)	染緑	変位、変形量 ・露頭面によって計測した変位、変形量	色調	走向・傾斜 ・その断面をも代表する断面で測定する。あるいは、主なせん断面について傾斜角で測定する。				
			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

スケッチ名 D-1トレンチ 1-1ピット北面 1/20 ④スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
・観察面の対象箇所名
・観察面の枠
・縮尺
・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

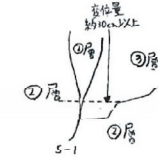
○

スケッチ

- ③層
- ・石少礫主体
- ・浅黄橙 (7.5YR 8/3)
- ・径 10cm 以下の亜角礫からなる
- ・礫率 20%
- ・淘洗は良い
- ・基質は中~粗粒砂からなる

- ②層
- ・シルト質砂礫主体
- ・浅い橙色 (5YR 7/4)
- ・径 10~70cm 程度の角~亜角礫からなる
- ・礫率 15~25%
- ・基質はシルト及び中~粗粒砂からなる
- ・上部には石少礫混じりシルトが分布する
- ・主に粘土、シルト、中粗粒砂からなる
- ・下部の一部には、シルト質砂礫が分布する

- ①層
- ・石少礫主体 ^{8/3}
- ・浅黄橙 (7.5YR 8/3)
- ・径 30cm 以下の亜角礫主体、最大径 50cm
- ・礫率 30~60%
- ・淘洗は極めて悪い
- ・上部には土層積層が見られる
- ・基質は中~粗粒砂からなる



S-1 セン断面
 ・②層と③層の境界を
 逆断層の向きが約40cm以上
 変位している。
 ・②層中に2条の亀裂がある。

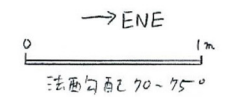
S-2 セン断面
 ・①層と②層の境界を逆断層の
 向きが約10cm変位している。

①層
 ②層
 S-2

S-3 セン断面

- G1P
- ・花崗斑岩
- ・浅黄橙 (7.5YR 8/4)
- ・全体に風化を受け、一部土砂状を呈する。

作成日・確認日：2022年3月28日
 確認者：[Redacted]



D-1トレンチ 1-1ピット北面 1/20 ④

青枠：①層の色調に関する部分

149のエビデンス (4/10)

2022
作成日 3/28 作成者 [Redacted] 確認者 [Redacted] 確認日 2022.3.28

No.	地層の仕状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(第四系)										スケッチ原図(基盤岩)				記事・スケッチを削除・変更・追記した理由	
			地質名	粒度構成、礫の構成、形状、粘性、線量、調子(角分)	種の風化度	含食物(有機質、頁岩など)	その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。	地層境界 -地層境界の整合、不整合体が認定できる場合は、その種類も併せて記載。	地層構造 -層理、葉理、柱状など	土質化シンド、地層環境、同層間関係、色調示すもの	走向・傾斜 -走向構造やせん断面の走向構造を記載。 -その面を最も代表する箇所を指定する(うすし、局所的に凹凸や方向が変化している箇所では測定しない)。	割れ目、せん断割れ目 -割れ目の系統毎の割れ目間隔、割れ目面の構造等の構造的特徴を記載。系統毎の代表的な割れ目の走向・傾斜、観察、条線などを記載。	色調	走向・傾斜 -その面を最も代表する箇所を指定する(うすし、局所的に凹凸や方向が変化している箇所では測定しない)。	色調	色調		
	透黄褐色(7.5YR8/3)の砂礫主体である。 ① 標準20cmで、径10cm以下の遊角礫からなる。 ② 海浜は厚い。 ③ 基質は中～粗粒砂からなる。			○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	
	に白い褐色(5YR7/4)のシルト質砂礫を主体とする。 ① 標準15～25cmで、径10～70cm程度の角～遊角礫からなる。 ② 基質はシルト状の中～粗粒砂からなる。 ③ 上部には砂礫混じりシルトが分布する。主に粘土、シルト、細粒砂からなる。 下部の一部には、シルト質砂礫が分布する。			○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	
	透黄褐色(7.5YR8/3)の砂礫主体である。 ① 標準30～60cmで、径20cm以下を主体とし最大径50cmの遊角礫からなる。 ② 海浜は極めて厚い。 ③ 上部には地層境界がみられる。 ④ 基質は中～粗粒砂からなる。	透黄褐色(7.5YR8/3)の砂礫主体である。 標準30～60cmで、径20cm以下を主体とし最大径50cmの遊角礫からなる。 海浜は極めて厚い。 上部には地層境界がみられる。 基質は中～粗粒砂からなる。		○	○	-	-	-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	色調(透黄褐色)と色調を示す記事(白砂礫)が重複していない。当該記事も確認し、各層(透黄褐色)が正しい。色調を示す記事の書き間違いであると判断した。
	花崗岩質。透黄褐色(7.5YR8/4) ① 全体に風化を受け、一部土砂状を呈する。			-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	○	-	

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕部										記事・スケッチを削除・変更・追記した理由				
			破砕部の性状 -破砕部の種 -破砕部の物質 -破砕部の連続性・連続性 -選別破砕部が認められる破片を主体とし、基質も破砕化した破片からなる組織の有無	内部構造 -柱状構造、層面構造、葉理構造、層状構造など	断層区分 -断層の向き・断層角、カタルーアイ(実測できる場合)に区分し記載。	破砕種 -破砕部によって計測した実位・変形量	断層活動面 (認定した場合)	条線	実位・変形量 -実位面によって計測した実位・変形量	色調	走向・傾斜 -その面を最も代表する箇所を指定する(うすし、局所的に凹凸や方向が変化している箇所では測定しない)。						
p-1	せん断部 ① 2層と3層の境界を近断層的にみかけ約10cm実位させる。 ② 層内で糸に分岐する。			-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	
p-2	せん断面 ① 2層と3層の境界を近断層的にみかけ約10cm実位させる。			-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	
p-3	せん断面			-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	

スケッチ名 D-1トレンチ 1-1ピット北面 1/20 ⑥スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか

- ・観察面の対象箇所名
- ・観察面の枠
- ・縮尺
- ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

○

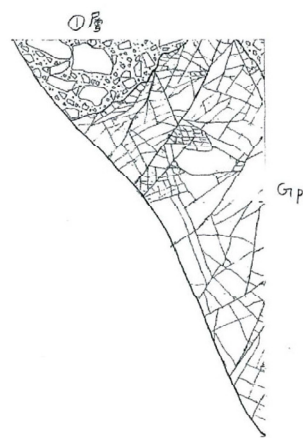
①層

- ・石少石碎性体 ^{8/3}
- ・浅黄橙 (7.5 YR 7/3)
- ・径 20cm以下の亜角石礫主体, 最大径 30cm
- ・石礫率 30~60%
- ・淘洗は悪い
- ・基質は中~粗粒砂が主

Gp

- ・風化花崗斑岩
- ・浅黄橙 (7.5 YR 6/4)

スケッチ



作成日・確認日：2022年3月28日
 確認者：[Redacted]

D-1トレンチ 1-1ピット北面 1/20 ⑥

青枠：①層の色調に関する部分

149のエビデンス (6/10)

2022
作成日 3/28 作成者 [Redacted] 確認者 [Redacted] 確認日 2022.3.28

No.	スケッチ名: D-11レンチ 1-1ピット北面 1/20 (仮)記事	地層の地質に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原因(第四系)										スケッチ原因(基盤岩)				記事・スケッチを削除・変更・追記した理由		
				地質の特徴						地層構造				地質名		風化・変質				
				地質名	粒度構成、礫の産出、層の厚さ、層の厚さ、層の厚さ	含有物(有機質、具類など)	その他、層面と面との状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。	地層境界の整合・不整合	地層構造	地層構造	地層構造	地層構造	土壌化など、地層構造	色調	色調	色調	色調			
		① 透黄褐色(7.5YR7/3)の砂礫主体である。② 礫率30～60%で、径20cm以下を主体とし最大径30cmの歪角礫からなる。③ 泥状は多い。④ 基質は中～極粗粒砂からなる。	透黄褐色(7.5YR8/3)の砂礫主体である。① 礫率30～60%で、径20cm以下を主体とし最大径30cmの歪角礫からなる。② 泥状は多い。③ 基質は中～極粗粒砂からなる。																	色調(透黄褐色)と色調を示す記号(7.5YR7/3)が整合していない。法面写真を確認し、色調(透黄褐色)が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
Qp		風化花崗岩: 透黄褐色(7.5YR8/4)																		
No.	スケッチ名	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯										破砕帯				記事・スケッチを削除・変更・追記した理由		
				破砕成分(Hc/Hs)	破砕部の性状 ・破砕部の種 ・破砕部の物質 ・破砕部の連続性・連続性 ・原形破砕が認められる破片を主体とし基質も細粒化した破片からなる層の存在	内部構造 ・破砕構造、整合面構造、葉状構造、網目状構造など	新層区分 ・新層がウジ・新層 ・新層がウジ・新層 ・新層がウジ・新層 ・新層がウジ・新層	破砕帯 ・破砕帯 ・破砕帯 ・破砕帯	層新活動帯 (認められた場合)	条線	変位・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	色調	色調	色調					

スケッチ名 D-1トレンチ 1-1ピット北面 1/20 ⑦スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
 ・観察面の対象箇所名
 ・観察面の枠
 ・縮尺
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

○

①層

- ・石少不礫主体 砂
- ・浅黄褐色 (7.5YR 8/4)
- ・径 30cm 以下の重角礫主体
最大径 40cm
- ・礫率 30~60%
- ・洞孔は極めて多い
- ・基盤は中~極粗粒砂からなる。

Gp-1

- ・花崗斑岩
- ・浅黄褐色 (7.5YR 8/4)
- ・全体に風化を受け、一部土砂状を呈する。

Gp-2

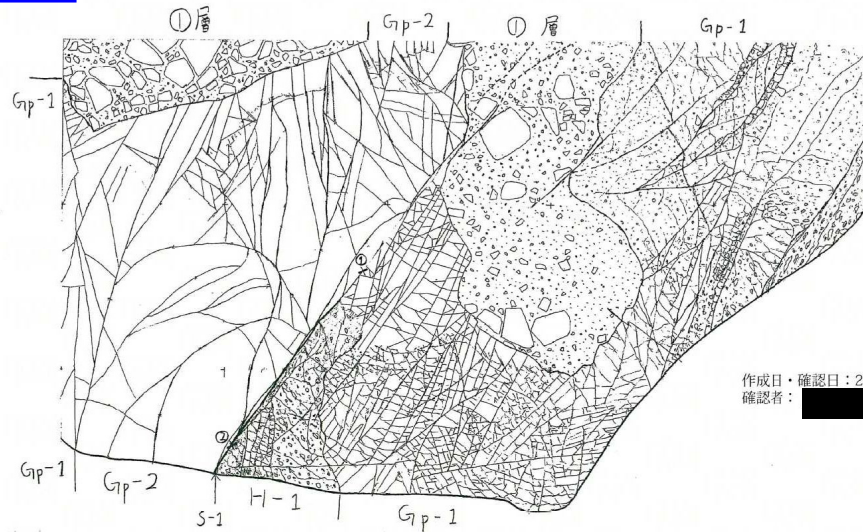
- ・花崗斑岩
- ・浅黄褐色 (7.5YR 8/4)
- ・全体に風化を受け、一部土砂状を呈する。
- ・全体的に変質している。

H-1

- ・カクテルサイト ~~変質したカクテルサイト~~
- ・灰白色 (7.5YR 8/2), 浅黄褐色 (7.5YR 8/4)
- ・礫質, シルト質砂状
- ・全体に変質を受け脱色, やや軟質
- ・カクテルサイトの特徴が認められる。
- ・糸田粒部は糸田状に分布する。

・原岩組織が認められる
 岩片を主体とし基質と組織化した
 土岩片からなる組織は一部で
 認められる。

スケッチ



確認日 (変質したカクテルサイト)

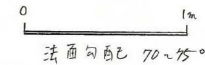
2022年7月5日

作成日・確認日: 2022年3月28日
 確認者: [Redacted]

確認者 [Redacted]

WSW ←

→ ENE



S-1 土人断面

- ・粘土
- ・灰褐色 (7.5YR 4/2)
- ・中層 3~9cm (代表的な中層: 5cm)
- ・迷入層カウジ
- ・軟泥質
- ・若干湾曲状が面はジューブ

Hc-1

- ・直線的
- ・原岩組織が認められる岩片を主体とし
基質も基岩風化した岩片からなる組織は
認められる。

① f: N7W54W

- ・灰褐色粘土 Hc-1
- ・傾角 2~6mm
- ・直線的
- ・迷入層カウジ
- ・軟泥質
- ・: (原岩組織 - ない)

② f: N3W61W

- ・灰褐色粘土 Hc-1
- ・傾角 3~6mm
- ・直線的
- ・迷入層カウジ
- ・軟泥質
- ・: (原岩組織 - ない)

Hc-1

- ・直線的

D-1トレンチ 1-1ピット北面 1/20 ⑦

スケッチ原因⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート(D-1トレンチ 1-1ピット北面 ①層の記載)

作成日 2022/7/5 作成者

確認日 2022.7.5 確認者

No.	スケッチ原因	報告書スケッチの記事
	<p>地層の性状に関する記事</p> <p>スケッチ原因から正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>適正化すべき記事内容 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)</p> <p>追加変更した情報が正しく転記されている <input checked="" type="checkbox"/></p>	<p>選定した記事内容</p> <p>スケッチ原因(地層の性状に関する記事)から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由 (スケッチ原因(地層の性状に関する記事)を適正化すべき記事内容としている場合は、それとの変更点)</p>
スケッチ原因③	<p>浅黄橙色(7.5YR7/3)の砂礫主体である。 礫率30~60%で、径20cm以下を主体とし最大径40cmの垂角礫からなる。 淘汰は悪い。 基質は中~極粗粒砂からなる。</p>	<p>浅黄橙色(7.5YR8/3)の砂礫主体である。 礫率30~60%で、径20cm以下を主体とし最大径40cmの垂角礫からなる。 淘汰は悪い。 基質は中~極粗粒砂からなる。</p>
スケッチ原因④	<p>浅黄橙色(7.5YR7/3)の砂礫主体である。 礫率30~60%で、径30cm以下を主体とし最大径50cmの垂角礫からなる。 淘汰は極めて悪い。 上部では堆積構造がみられる。 基質は中~極粗粒砂からなる。</p>	<p>浅黄橙色(7.5YR8/3)の砂礫主体である。 礫率30~60%で、径30cm以下を主体とし最大径50cmの垂角礫からなる。 淘汰は極めて悪い。 上部では堆積構造がみられる。 基質は中~極粗粒砂からなる。</p>
スケッチ原因⑥	<p>浅黄橙色(7.5YR7/3)の砂礫主体である。 礫率30~60%で、径20cm以下を主体とし最大径30cmの垂角礫からなる。 淘汰は悪い。 基質は中~極粗粒砂からなる。</p>	<p>浅黄橙色(7.5YR8/3)の砂礫主体である。 礫率30~60%で、径20cm以下を主体とし最大径30cmの垂角礫からなる。 淘汰は悪い。 基質は中~極粗粒砂からなる。</p>
スケッチ原因⑦	<p>浅黄橙色(7.5YR7/3)の砂礫主体である。 礫率30~60%で、径30cm以下を主体とし最大径40cmの垂角礫からなる。 淘汰は極めて悪い。 基質は中~極粗粒砂からなる。</p>	<p>浅黄橙色(7.5YR8/3)の砂礫主体である。 礫率30~60%で、径30cm以下を主体とし最大径40cmの垂角礫からなる。 淘汰は極めて悪い。 基質は中~極粗粒砂からなる。</p>

①層: 砂礫を主体とする。浅黄橙色(7.5YR8/3)。礫率30~60%で径30cm以下(最大径50cm)の垂角礫からなる。淘汰は極めて悪い。基質は中~極粗粒砂からなる。

・礫の最大礫径は、観察面で最大となるスケッチ原因④の記載(50cm)を採用した。
・淘汰度は、①層が最も広く観察されるスケッチ④の記載(極めて悪い)を採用した。
・色調(浅黄橙色)と色調を示す記号(7.5YR7/3)が整合していない。観察面の写真を確認し、色調(浅黄橙色)が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。

D-1トレンチ1-1ピット北面写真

149のエビデンス (10/10)

2013年6月撮影

WSW←

→ENE



拡大写真: 北面

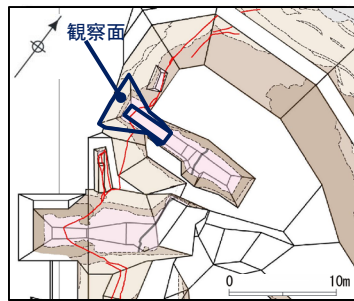
2m

1-1トレンチ北面写真

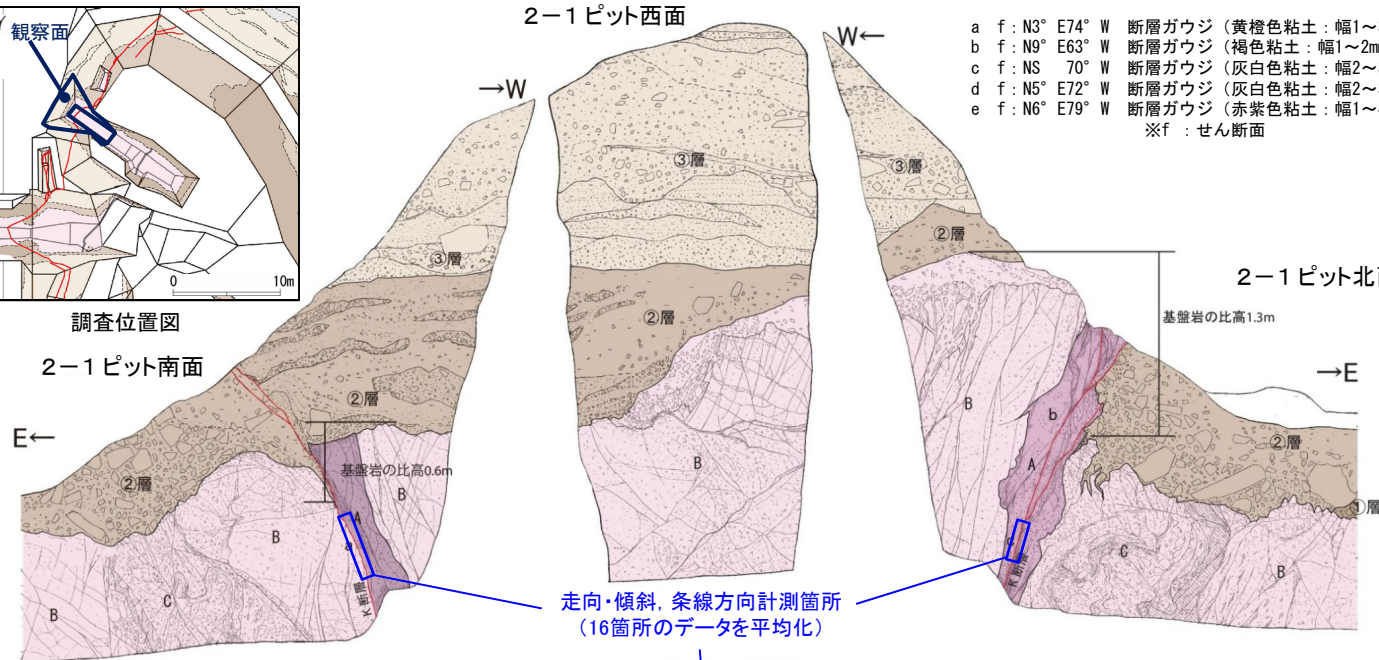
K断層の性状(2-1ピット)

150, 151 (D-1トレンチ2-1ピット)修正箇所: 橙色枠

- 2-1ピットのスケッチを以下に示す。
- 2-1ピットでは、K断層は基盤岩から堆積物(②層)までを変位させている。
- 最新活動面について複数の条線方向を統計的に整理した結果、縦ずれ成分が卓越する。また、最新活動面の薄片観察による変位センスは逆断層センスである。



調査位置図



- a f : N3° E74° W 断層ガウジ (黄橙色粘土: 幅1~3mm) 条線 (rake)=67° R
- b f : N9° E63° W 断層ガウジ (褐色粘土: 幅1~2mm)
- c f : NS 70° W 断層ガウジ (灰白色粘土: 幅2~3mm)
- d f : N5° E72° W 断層ガウジ (灰白色粘土: 幅2~3mm)
- e f : N6° E79° W 断層ガウジ (赤紫色粘土: 幅1~4mm)
- ※f : せん断面

走向・傾斜, 条線方向計測箇所 (16箇所データを平均化)

基盤岩 (花崗斑岩)

- A: 花崗斑岩質カクレーサイト: 砂質シルト~礫混じりシルト質砂状。やや軟質。全体的に変質を受けている。
- B: 風化花崗斑岩: 浅黄橙色 (7.5YR8/4~7.5YR8/6)。主にやや脆弱な角礫状。
- C: 花崗斑岩 (破碎質部): 黒褐色~浅黄橙色 (7.5YR3/2~7.5YR8/6)。主に砂質細礫状。部分的に砂質シルト~シルト質砂状を呈する。
- ②層: 礫混じり砂質シルト: 明褐色~明褐灰色 (7.5YR7/1~7.5YR8/6)。礫は径5cm以下の風化礫。下部ほど細粒。シルト質砂礫: 礫径50cm以下の垂魚礫を含む。
- ③層: 礫混じりシルト質細砂: 橙~浅黄橙色、灰白色 (5YR7/8~7.5YR8/2)。基質はシルト, 細~中砂主体。砂礫層をレンズ状に挟み, 淘汰が悪い。礫は径5cm以下の風化花崗斑岩の亜角礫主体。径15cmのものも見られる。

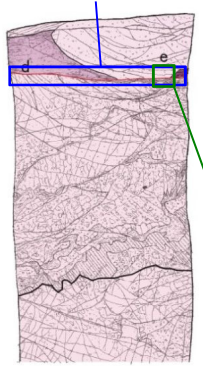
凡例

- ③層
- ②層
- 花崗斑岩
- 破碎部
- 熱水変質部
- せん断面
- せん断面 (不明瞭)
- 地層境界



※青枠, 緑枠は性状一覧表に記載したデータの計測箇所

断層ガウジ・断層角礫の幅計測箇所



2-1ピット底盤

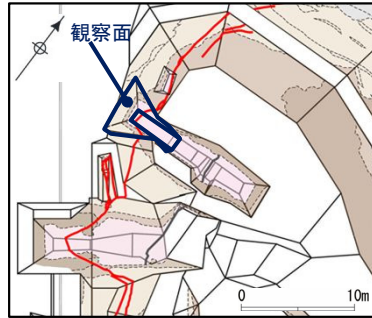
2013年4月作成

K断層の性状(2-1ピット)

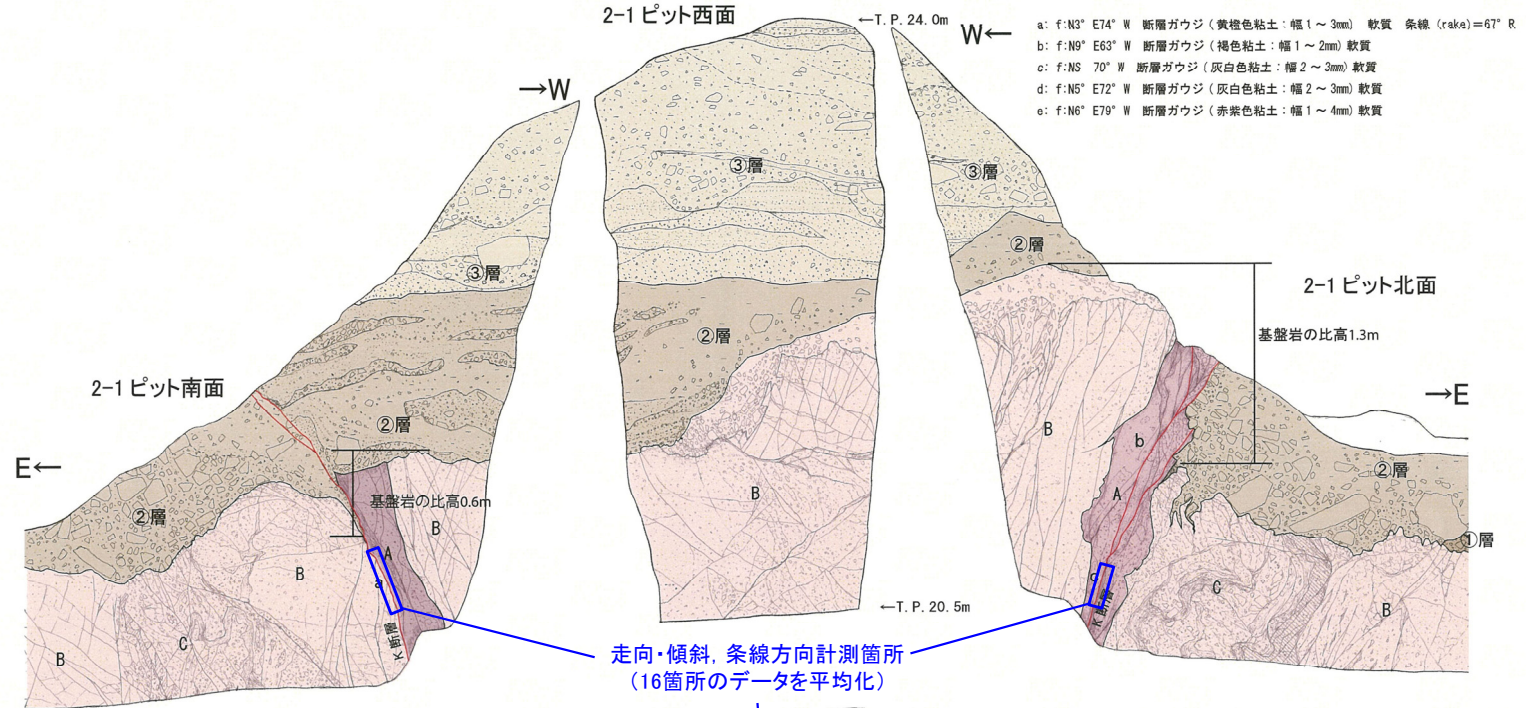
150 : ②層の色調修正
151 : ③層の色調修正

修正後

- 2-1ピットのスケッチを以下に示す。
- 2-1ピットでは, K断層は基盤岩から堆積物(②層)までを変位させている。
- 最新活動面について複数の条線方向を統計的に整理した結果, 縦ずれ成分が卓越する。また, 最新活動面の薄片観察による変位センスは逆断層センスである。



調査位置図



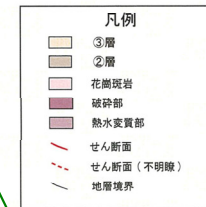
走向・傾斜, 条線方向計測箇所
(16箇所のデータを平均化)

基盤岩
(花崗斑岩)

- A: 花崗斑岩質の変質したカクレーサイト: 浅黄橙色~灰白色 (7.5YR8/3 ~ 7.5YR8/1)。
砂質シルト~礫混じりシルト質砂状。やや軟質。全体的に変質を受けている。
カクレーサイトの特徴が認められる。
- B: 風化花崗斑岩: 浅黄橙色 (7.5YR8/4 ~ 7.5YR8/6)。
主にやや脆弱な角礫状。
- C: 花崗斑岩 (破碎質部): 黒褐色~浅黄橙色 (7.5YR3/2 ~ 7.5YR8/6)。
主に砂質細礫状。部分的に砂質シルト~シルト質砂状を呈する。
- ②層: 礫混じり砂質シルト | 明褐色~浅黄橙色 (7.5YR7/1 ~ 7.5YR8/6)。
礫は径 5cm 以下の風化礫。下部ほど細粒。
シルト質砂礫: 礫径 50cm 以下の垂角礫を含む。
- ③層: 礫混じりシルト質細砂: 橙~浅黄橙色, 灰白色 (5YR7/8 ~ 7.5YR8/6, 7.5YR8/2)。
基質はシルト、細~中砂主体。砂礫層をレンズ状に挟み 淘洗が悪い。
礫は径 5cm 以下の風化花崗斑岩の垂角礫主体。径 15cm のものも見られる。



2-1ピット底盤



断層ガウジ・断層角礫の幅計測箇所

※青枠, 緑枠は性状一覧表に記載したデータの計測箇所

作成日: 2022年7月5日

スケッチ名:D-1トレンチ 2-1ピット 1/20 北面下部(1/6) スケッチ

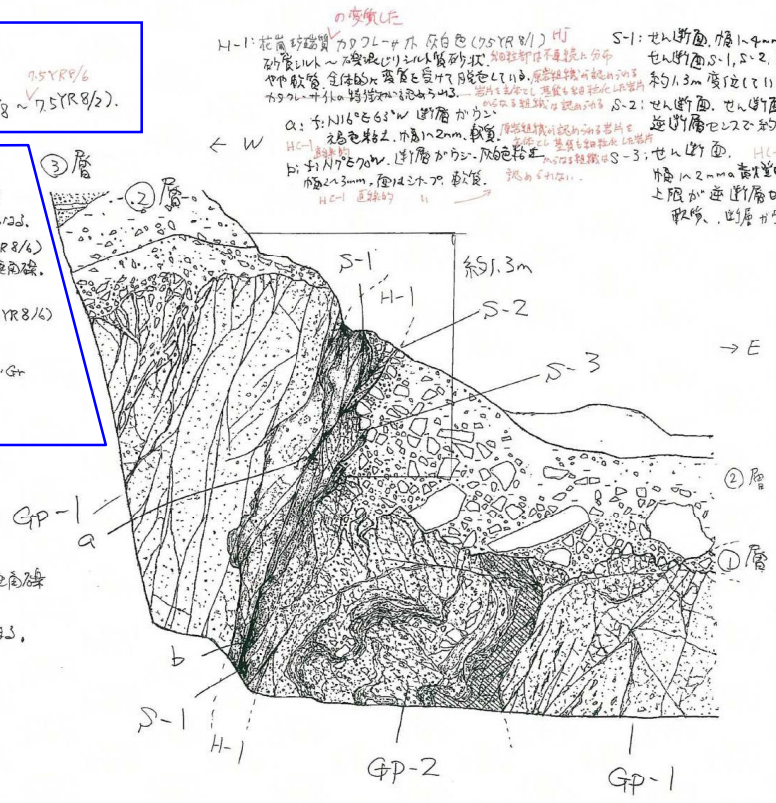
スケッチ原因に以下の情報が書かれているか
 ・観察面の対象箇所名
 ・観察面の枠
 ・縮尺
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)
 ・観察年月日、観察者

○

③層
 7.5YR 7/6
 7.5YR 8/2
 7.5YR 8/6
 7.5YR 8/2

②層
 破砕した砂質シルト質砂礫
 主に上部が、破砕した砂質シルト質砂礫。
 明褐色～明褐色(7.5YR 7/1～7.5YR 8/4)
 礫は径5cm以下の風化Gp-Grの角礫。
 下部はシルト質砂礫質砂礫。
 明褐色～明褐色(7.5YR 7/1～7.5YR 8/4)
 礫率50～60%
 礫は径5cm以下の風化Gp-Gr
 角礫質砂礫。
 裏面に砂質シルト質砂礫。

①層
 砂礫
 黄褐色(7.5YR 7/8)
 礫率50%
 主に径5～20cmの風化Gp-Grの角礫
 礫は径5cm以下の風化
 礫率は主に中～粗砂質と認められる。



の破砕した
 H-1: 花崗岩質質カワクレイ灰白色(7.5YR 8/1) HJ
 砂質シルト～砂質シルト質砂礫。礫は径5cm以下の風化Gp-Grの角礫。
 やや軟弱。全体的に黄褐色と黄褐色(7.5YR 7/1～7.5YR 8/4)。
 下部はシルト質砂礫質砂礫。礫率は主に中～粗砂質と認められる。
 礫は径5cm以下の風化Gp-Grの角礫。
 礫率は主に中～粗砂質と認められる。
 α: 7.5YR 6/6のシルト層からなる。
 H-1: 黄褐色粘土。厚さ1.2m。軟質。厚さ約1.2mのシルト質砂礫質砂礫。
 β: 7.5YR 7/6のシルト層からなる。厚さ約1.2m。軟質。厚さ約1.2mのシルト質砂礫質砂礫。
 H-1: 黄褐色粘土。厚さ1.2m。軟質。厚さ約1.2mのシルト質砂礫質砂礫。
 S-1: せん断面。厚さ1.2mの灰白色粘土。軟質。断層からなる。H-1: 黄褐色粘土。
 せん断面S-1, S-2, S-3は、断層の上限が断層層の上で、
 厚さ約1.3m厚位(約1.3m)分岐している。S-2, S-3は、断層の上限が断層層の上で、
 厚さ約1.3m厚位(約1.3m)分岐している。S-1は、断層の上限が断層層の上で、
 厚さ約1.3m厚位(約1.3m)分岐している。
 S-2: せん断面。せん断面S-1, S-2, S-3は、断層の上限が断層層の上で、
 厚さ約1.3m厚位(約1.3m)分岐している。S-1は、断層の上限が断層層の上で、
 厚さ約1.3m厚位(約1.3m)分岐している。
 S-3: せん断面。せん断面S-1, S-2, S-3は、断層の上限が断層層の上で、
 厚さ約1.3m厚位(約1.3m)分岐している。S-1は、断層の上限が断層層の上で、
 厚さ約1.3m厚位(約1.3m)分岐している。
 甲2号。出層カウチ

GP-1
 風化花崗岩質砂礫
 黄褐色(7.5YR 8/4～7.5YR 8/6)
 主に中～粗砂質の角礫状。
 GP-2
 花崗岩質(砂礫質砂礫)
 明褐色～黄褐色(7.5YR 7/2～7.5YR 8/6)
 主に砂質シルト質砂礫。一部はシルト質砂礫質砂礫。
 砂質シルト質砂礫と認められる。
 0 1m
 法面勾配 65°

2-1ピット北面F#P(1/6) 27.11/20

作成日・確認日：2022年3月28日
 確認者：[Redacted]

確認日(復検済カワクレイ) 2022年7月5日
 確認者：[Redacted]

スケッチ

青枠：②層、③層の色調に関する部分

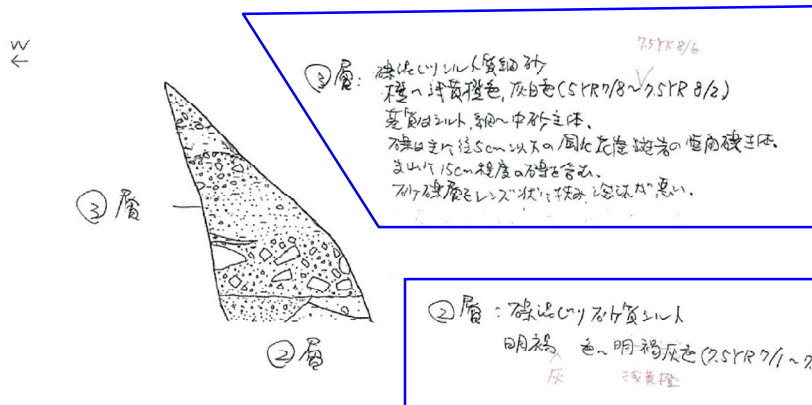
150, 151のエビデンス (3/13)

スケッチ名:D-1トレンチ 2-1ピット 1/20 北面上部(2/6) スケッチ

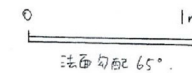
スケッチ原因に以下の情報が書かれているか
 ・観察面の対象箇所名
 ・観察面の枠
 ・縮尺
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)
 ・観察年月日、観察者

○

スケッチ



2-1ピット北面上部(3/6) 22.11.1/20



作成日・確認日: 2022年3月28日
 確認者: [Redacted]

青枠：②層，③層の色調に関する部分

2022
作成日 3/28

作成者

確認者

確認日 2022.3.28

スケッチ名: D-1トレンチ 2-1ピット 1/20 北面上部(2/6) 記事		スケッチ原因(第四系)										スケッチ原因(基礎部)				記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	地質名	地質の特徴				地層境界	埋積構造	土質化など、埋積層は、時間経過を色調とするもの	走向・傾斜 ・埋積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 ・その面を最も代表する箇所を指定する(必ずしも、全所的に凹凸や方向が変化している箇所では測定しない)。	風化・変質	割れ目・せん断割れ目 ・地盤中の高圧部の割れ目割れ目割れ目割れ目の存在物の種類と幅及び色調。系統毎の代表的な割れ目の走向・傾斜、開口、充填などを記載。	色調	走向・傾斜 ・割れ目ではその面を最も代表する箇所を指定する(必ずしも、全所的に凹凸や方向が変化している箇所では測定しない)。	
				・粒度構成、硬さ、含水率、液性、縮み、締まり具合	・硬さの風化、含有物(有機質、頁岩など)	・その他、異部と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。	・埋積構造の整合・不整合、埋積構造、土質化など									
	① 埋積シルト質細砂 層→淡黄緑色、灰白色(5YR7/8~7.5YR8/2)。 高圧なシルト、細一中砂主体。 層は主に径5mm以下の風化花崗閃緑岩の歪角礫主体。まれに15mm程度の礫を含む。 砂層層をレンズ状に挟み、薄法が薄い。	埋積シルト質細砂 層→淡黄緑色、灰白色(5YR7/8~7.5YR8/2)。 高圧なシルト、細一中砂主体。 層は主に径5mm以下の風化花崗閃緑岩の歪角礫主体。まれに15mm程度の礫を含む。 砂層層をレンズ状に挟み、薄法が薄い。	○	○	○	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	色調の記号を追加
	② 埋積シリ砂質シルト層 明緑色→明緑灰色(7.5YR7/1~7.5YR8/6)。	埋積シリ砂質シルト 明緑灰色→淡黄緑色(7.5YR7/1~7.5YR8/6)。	○	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	色調(明緑色→明緑灰色)と色調を 添す記号(7.5YR7/1~7.5YR8/6)が 不一致であったため、調査写真を確認 して色調の記載を修正した。
No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕部													記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			破砕部の性状 ・埋積部の層 ・破砕部内物質 ・破砕 ・破砕部の連続性・連続性 ・埋積層が認められる前片を主体とし、基質を細粒化した前片からなる区層の有無	内部構造 ・埋積構造、埋合面構造、変形構造、網目状、粘土など	埋積構造 ・埋積構造、埋合面構造、変形構造、網目状、粘土など	埋積構造 ・埋積構造、埋合面構造、変形構造、網目状、粘土など	埋積構造 ・埋積構造、埋合面構造、変形構造、網目状、粘土など	埋積構造 ・埋積構造、埋合面構造、変形構造、網目状、粘土など	埋積構造 ・埋積構造、埋合面構造、変形構造、網目状、粘土など	埋積構造 ・埋積構造、埋合面構造、変形構造、網目状、粘土など	埋積構造 ・埋積構造、埋合面構造、変形構造、網目状、粘土など	埋積構造 ・埋積構造、埋合面構造、変形構造、網目状、粘土など	埋積構造 ・埋積構造、埋合面構造、変形構造、網目状、粘土など	埋積構造 ・埋積構造、埋合面構造、変形構造、網目状、粘土など	埋積構造 ・埋積構造、埋合面構造、変形構造、網目状、粘土など	
-			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

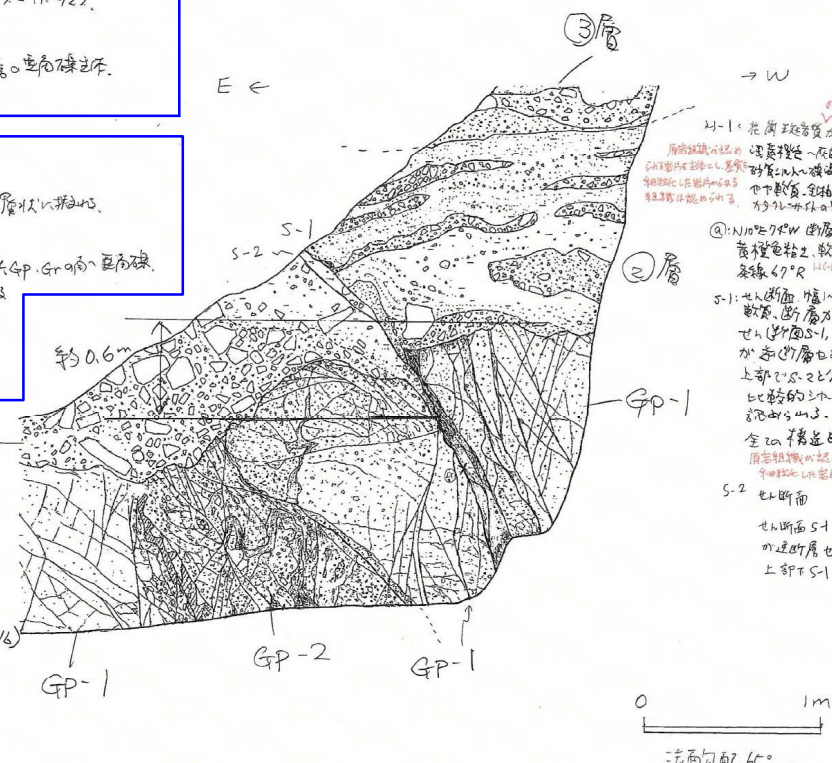
スケッチ名: D-1トレンチ 2-1ピット 1/20 南面下部(3/6) スケッチ

スケッチ原因に以下の情報が書かれているか ・観察面の対象箇所名 ・観察面の枠 ・縮尺 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔) ・観察年月日、観察者
○

③層: 礫混じりシルト質細砂
 7.5YR 8/6
 橙～浅黄橙色, 灰白色(5.5YR 7/8~7.5YR 8/2).
 基質はシルト, 細中砂主体.
 石塊径5cm以下の風化花崗斑岩の亜角礫主体.
 砂礫層を挟み, 毎1mおき.

②層: 礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫.
 シルト質砂礫は主に東側の1m付近.
 西側のシルト質砂礫は礫混じり砂質シルト層中に挟み込まれる.
 明褐色～明褐色 (7.5YR 7/1~7.5YR 8/6)
 礫混じり砂質シルトの礫径5cm以下の風化花崗斑岩の角礫.
 礫層下部には細粒粘土を含む厚さ2.5cmの
 1-2cmの薄層構造が見える.
 基質は主にシルト質中粒砂.
 シルト質砂礫の礫径は主に50cm以下の
 風化花崗斑岩の角礫を主体とし,
 含量50~60%.
 基質はシルト質中粒砂.

GP-1: 風化花崗斑岩
 浅黄橙色(7.5YR 8/4~7.5YR 8/6).
 主に中粒砂を角礫状.
 GP-2: 花崗斑岩(砂礫層部)
 黒褐色～浅黄橙色(5.5YR 3/2~7.5YR 8/6)
 主に中粒細砂状.
 部分的に砂質シルト～シルト質砂礫状
 となる.



②-1: 花崗斑岩質カクレンサマ H₁
 礫混じりシルト質中粒砂 (5.5YR 8/5-8.5YR 8/1)
 礫径5cm以下の風化花崗斑岩の角礫を主体とし, 含量50~60%.
 基質はシルト質中粒砂.
 礫層下部には細粒粘土を含む厚さ2.5cmの
 1-2cmの薄層構造が見える.
 ②-2: 花崗斑岩質カクレンサマ H₂
 礫混じりシルト質中粒砂 (5.5YR 8/5-8.5YR 8/1)
 礫径5cm以下の風化花崗斑岩の角礫を主体とし, 含量50~60%.
 基質はシルト質中粒砂.
 礫層下部には細粒粘土を含む厚さ2.5cmの
 1-2cmの薄層構造が見える.
 S-1: 土断面 断面は主に明褐色～明褐色のシルト質中粒砂
 礫混じり砂質シルト層からなる。
 S-2: 土断面 断面は主に明褐色～明褐色のシルト質中粒砂
 礫混じり砂質シルト層からなる。
 GP-1: 土断面 断面は主に明褐色～明褐色のシルト質中粒砂
 礫混じり砂質シルト層からなる。
 GP-2: 土断面 断面は主に明褐色～明褐色のシルト質中粒砂
 礫混じり砂質シルト層からなる。
 全体的に断面は明褐色～明褐色のシルト質中粒砂
 礫混じり砂質シルト層からなる。
 断面スケールは1m.

スケッチ

2-1ピット南面下部(3/6) 24.11.1/20

作成日・確認日: 2022年3月28日
 確認者: [Redacted]
 確認日(復検): 2022年7月5日
 確認者: [Redacted]

青枠：②層、③層の色調に関する部分

作成日 2022/7/5 作成者 [redacted] 確認者 [redacted] 確認日 2022.7.5

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(第4頁)										記事・スケッチを削除・変更・追記した理由						
			地質名	粒定規模、形状、配列、構造、積り具合	色の風化、含有物(有機質、頁岩など)	その他、断面と異なる状況や特徴的な状況がある場合、それらについて記す。	地層境界	地層境界の整合・不整合の程度や定まる場合、その程度も併せて記す。	堆積構造	管理、整理、統合	土壌化など、堆積・堆積採取の色調示すもの	走向・傾斜		走向・傾斜 -堆積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 -その面を最も代表する箇所を指定するよう記す。局所的に異なる方向が示している箇所では測定しない。	地質名	風化・変質	厚れ目・せん断面など -断面の厚れ目の厚さを記載し、割れ目の厚さを記載し、色調、高さを記載する。厚れ目の測定は、傾斜・傾角などを記載する。	走向・傾斜	走向・傾斜 -断面の厚れ目を最も代表する箇所を指定するよう記す。局所的に異なる方向が示している箇所では測定しない。
①	緑泥質シルト質砂 厚～1cm程度、灰白色(5YR7/2～7.5YR8/2)。 基質はシルト。細～中砂主体。 厚は約50cm以下の風化面直下の基質主体。 砂層を積み、海法が悪い。	緑泥質シルト質砂 厚～1cm程度、灰白色(5YR7/2～7.5YR8/2)。 基質はシルト。細～中砂主体。 厚は約50cm以下の風化面直下の基質主体。 砂層を積み、海法が悪い。	○	○	○	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	色調の記号を追加
②	緑泥質シルト質砂 シルト質砂は主に東側に分布する。 各層のシルト質砂は緑泥質シルト中に層状に含まれる。 明褐色～暗褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 厚は2cmほど層状だが、含有量は多くなる。 一部に堆積構造が見える。 基質はシルト質砂。 シルト質砂の厚は主に約50cm以下の風化したGe-Gの角～歪角層を含む。 厚約10cm。 基質はシルトからなる。	緑泥質シルト質砂 シルト質砂は主に東側に分布する。 各層のシルト質砂は緑泥質シルト中に層状に含まれる。 明褐色～暗褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 厚は2cmほど層状だが、含有量は多くなる。 一部に堆積構造が見える。 基質はシルト質砂。 シルト質砂の厚は主に約50cm以下の風化したGe-Gの角～歪角層を含む。 厚約10cm。 基質はシルトからなる。	○	○	○	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	色調(明褐色～暗褐色)と色調を 表示記号(7.5YR7/1～7.5YR8/6)が 不足であったため、調査写真を 添付して色調の記載を修正した。
③	風化花崗岩部 深褐色(7.5YR4～7.5YR6/6)。 主にやや粗粒な角礫状。		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	
④	花崗岩部(砂質部) 深褐色～黒褐色(7.5YR3/2～7.5YR6/6)。 主に砂質礫状、部分的に砂質シルト質砂状を呈する。		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	

No.	境界線に関する記事	適正化すべき記事内容	境界線										記事・スケッチを削除・変更・追記した理由					
			境界線区分 (H/L/R)	境界線の性状 -境界線の -境界線内物質 -境界線 -境界線の連続性・連続性 -境界線が認められる岩片を主体とし、基質も連続化した岩片からなる境界線の有無	内部構造 -粗粒構造、結合面構造、異質構造、網目状粘土など	新層線区分 -新層カウジ・新層角礫・カクレーサイズ -に区別し記載	境界線 (識別できる場合)	最新活動面 (認定した場合)	色調	厚れ目・変形量 -厚れ目によって計測した厚れ目・変形量 -変形	走向・傾斜 -その面を最も代表する箇所を指定するよう記す。局所的に異なる方向が示している箇所では測定しない。また、せん断面については傾角も記載する。							
H	花崗岩部(砂質部) 深褐色～灰白色(5YR8/2～7.5YR8/1) -砂質シルト～緑泥質シルト質砂。 1) やや粗粒、全体的に変質を受けて灰色している。 カクレーサイズの境界線が認められる。	花崗岩部(砂質部)の深褐色～灰白色(5YR8/2～7.5YR8/1)の砂質シルト～緑泥質シルト質砂は、やや粗粒、全体的に変質を受けて灰色している。境界線は連続性に分布。境界線が認められる岩片を主体とし、基質も連続化した岩片からなる境界線は認められる。	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	境界線区分、および新層線区分の判断理由を記載。
R	1) H/L/R: 2) W 新層カウジ 異質色粘土、軟質 厚1～3mm 染褐色R	1) H/L/R: 2) W 新層カウジ 異質色粘土 H=1 厚1～3mm 染褐色R 軟質 連続的 境界線が認められる岩片を主体とし、基質も連続化した岩片からなる境界線は認められる。	○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	境界線区分、および新層線区分の判断理由を記載。
H	せん断面 厚1～3mmの異質色～暗褐色粘土。 軟質 新層カウジ せん断面は、5-21により基質の上層が断層セリスで約0.6m変位している。 上部で2と分離している。 比較的シャープだが、真面目認められる。 全ての構造を切り、境界線を示す。	せん断面 厚1～3mmの異質色～暗褐色粘土、H=1 軟質 新層カウジ せん断面は、5-21により基質の上層が断層セリスで約0.6m変位している。 上部で2と分離している。 比較的シャープだが、真面目認められる。 全ての構造を切り、境界線を示す。	○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	境界線区分、および新層線区分の判断理由を記載。
H	せん断面 厚1～3mmの異質色～暗褐色粘土。 軟質 新層カウジ せん断面は、5-21により基質の上層が断層セリスで約0.6m変位している。 上部で2と分離している。	せん断面 厚1～3mmの異質色～暗褐色粘土、H=1 軟質 新層カウジ せん断面は、5-21により基質の上層が断層セリスで約0.6m変位している。 上部で2と分離している。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	

青杵：③層の色調に関する部分

151のエビデンス (7/13)

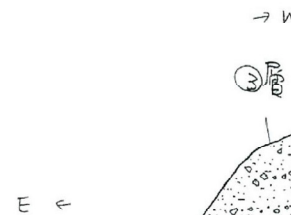
スケッチ名:D-1トレンチ 2-1ピット 1/20 南面上部(4/6) スケッチ

スケッチ原因に以下の情報が書かれているか

- 観察面の対象箇所名
- 観察面の杵
- 縮尺
- 方位、スケール(または、グリッドの間隔)
- 観察年月日、観察者

○

スケッチ



③層
 植込C11L1L1(質細砂 7.5YR 8/6
 様々色度褐色, 棕色(5YR 7/6~7.5YR 8/6).
 厚層はL1L1, 細中砂主体, 湿気が多い.
 L1L1層砂層と砂質.
 石炭粒径2~5cmの同心花崗斑岩の
 面層砂主体.
 厚さ15cm(最大35cm)程度の砂と砂質.

2-1ピット 南面上部(4/6) スケール 1/20



作成日・確認日: 2022年3月28日
 確認者: [Redacted]

青枠：③層の色調に関する部分

2022
作成日 3/28 作成者 [Redacted] 確認者 [Redacted] 確認日 2022.3.28

スケッチ名: D-11-11-1 2-1ピット 1/20 南面上部(4.6) 記事		スケッチ原図(第四系)										スケッチ原図(基盤岩)											
No	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	地質の特徴										スケッチ原図(基盤岩)										
			地質名	粗成構成、 細成構成、 礫の 種類、形状、 粒径、構造、 埋入の有無	礫の風化 深	含有物(有機 質、頁岩など)	その他、層間と異なる 状況や特徴的な状況があ れば、それぞれについて記 載。	地層境界 ・地層境界の整合・不整合 ・地層境界の連続性 ・地層境界の連続性 ・地層境界の連続性	連続構造 ・層理、葉理、 柱状など	土壌化など、地層 境界、地層境界 を示すもの	走向・傾斜 ・地層構造やせん断面の定 向・傾斜を記載。 その裏でも代表する層所 で測定するようし、局所 に層面や方向が変化してい る箇所では測定しない。	地質名	風化・変質	割れ目・変質 ・割れ目・せん断面 ・層理中の高角性の割れ目間隔、割 れ目面の構造物の種類・傾斜及び定 向、高角性の代表的な割れ目の定 向・傾斜、傾斜などを記載	色調	走向・傾斜 ・割れ目ではその面を最も代表す る層所で測定するようし、局所 的に層面や方向が変化している箇 所では測定しない。	記事・スケッチを削除・変更・追記し た理由						
③	褐色シルト質細砂 埋入流紋岩色、灰白色 (SYR7/8~7SYR8/2)。 基質はシルト、細一中砂主体、塊状が強い。 シルト質砂層を挟む。 塊は径2~5cmの風化花崗閃岩の五角塊主体、まれに15cm(最大35cm)程度の塊を含む。	褐色シルト質細砂 埋入流紋岩色、灰白色 (SYR7/8~7SYR8/2)。 基質はシルト、細一中砂主体、塊状が強い。 シルト質砂層を挟む。 塊は径2~5cmの風化花崗閃岩の五角塊主体、まれに15cm(最大35cm)程度の塊を含む。	○	○	○	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	色調の記号を追加
No	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯										破砕帯										
			破砕帯区分 (He/Hu/Hj)	破砕部の性状 ・破砕部の種類 ・破砕部の性質 ・破砕部の連続性 ・破砕部の連続性 ・破砕部の連続性 ・破砕部の連続性 ・破砕部の連続性	内部構造 ・塊状構造、塊状構造 ・塊状構造、塊状構造 ・塊状構造、塊状構造 ・塊状構造、塊状構造	断層帯区分 ・断層帯の連続性 ・断層帯の連続性 ・断層帯の連続性 ・断層帯の連続性	破砕帯 ・破砕帯の連続性 ・破砕帯の連続性 ・破砕帯の連続性 ・破砕帯の連続性	震動活動面 (認定した場合)	条線	変位・変形量 ・変位・変形量 ・変位・変形量 ・変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する層所で測 定する。あるいは、主断面 について複数点で測定する。	記事・スケッチを削除・変更・追記し た理由										
-			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

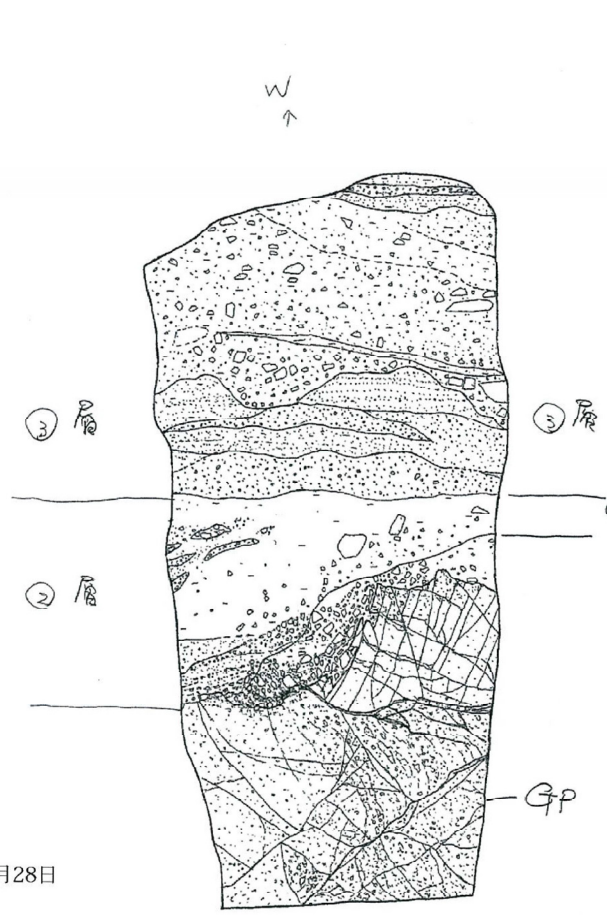
青枠：②層，③層の色調に関する部分

150, 151のエビデンス (9/13)

スケッチ名：D-1トレンチ 2-1ピット正面壁面 1/20 正面壁面(6/6) スケッチ

スケッチ原因に以下の情報が書かれているか
 ・観察面の対象箇所名
 ・観察面の枠
 ・縮尺
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)
 ・観察年月日、観察者

スケッチ



③層
 礫径10cm以下、
 堆積物黄褐色、灰白色(SYR 7/8 ~ 2SYR 8/2).
 基質カシ、細~中砂主体、シルト層、砂層を
 レズ状に挟み、浸透性低い。
 礫径5cm以下の風化花崗斑岩の亜角礫主体。
 基質は5cm程度の白色風化砂。
 ついては明瞭なとらえられ。

②層
 礫径10cm以下、シルト質砂礫
 シルト質砂礫は下部に存在。
 上部は礫径10cm以下、シルト主体。
 明褐色、明褐色(SYR 7/1 ~ 2SYR 8/6)
 礫径10cm以下の風化花崗斑岩
 Lf GP・Graの亜角礫
 一部埋没構造が見える。
 シルト質砂礫の礫径は30cm以下の
 風化GP・Graの亜角礫を主体。
 砕率50~60%。
 基質は砂質シルト

GP
 風化花崗斑岩
 黄褐色(SYR 8/4 ~ 2SYR 8/6)
 主に脆弱な角礫状、7R、7Y、4X。
 割れ目明瞭。
 0 1m
 北面方位 65°

作成日・確認日：2022年3月28日
 確認者：[Redacted]

2-1ピット正面壁面 1/20

スケッチ原図⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート(D-1トレンチ 2-1ピット ②層の記載)

作成日 2022 7/5 作成者 [redacted] 確認日 2022 7.5 確認者 [redacted]

No.	スケッチ原図		報告書スケッチの記事	
	地層の性状に関する記事 スケッチ原図から正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	適正化すべき記事内容 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されている <input checked="" type="checkbox"/>	選定した記事内容	スケッチ原図(地層の性状に関する記事)から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由 (スケッチ原図(地層の性状に関する記事)を適正化すべき記事内容としている場合は、それとの変更点)
スケッチ原図(北面下部)	<p>礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 主に上部が礫混じり砂質シルトからなる。 明褐色～明褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫は径5cm以下の風化したGp・Grの亜角礫。 下部はシルト質砂礫からなる。 明褐色～明褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫率50～60% 礫は主に径50cm以下の風化したGp・Gr亜角礫が多い。 基質は砂質シルトからなる。</p>	<p>礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 主に上部が礫混じり砂質シルトからなる。 明褐色～浅黄褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫は径5cm以下の風化したGp・Grの亜角礫。 下部はシルト質砂礫からなる。 明褐色～浅黄褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫率50～60% 礫は主に径50cm以下の風化したGp・Gr亜角礫が多い。 基質は砂質シルトからなる。</p>		
スケッチ原図(北面上部)	<p>礫混じり砂質シルト 明褐色～明褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6)。</p>	<p>礫混じり砂質シルト 明褐色～浅黄褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6)。</p>		<p>・北面上部の記事は観察面が狭いため不採用とした。 ・シルト質砂礫の礫径は、②層の観察面が広い北面下部の記事(50cm以下)を採用した。 ・礫の形状はスケッチ原図(北面下部、正面壁面)で記載されている亜角礫を代表的な形状とした。 ・色調(明褐色～明褐色)と色調を表す記号(7.5YR7/1～7.5YR8/6)が不一致であったため、観察面写真を確認して色調の記載を修正した。</p>
スケッチ原図(南面下部)	<p>礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 シルト質砂礫は主に東側に分布する。 西側のシルト質砂礫は礫混じり砂質シルト中に層状に含まれる。 明褐色～明褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫混じり砂質シルトの礫は径5cm以下の風化したGp・Grの角～亜角礫。 礫は下部ほど細粒だが、含有量は多くなる。 一部に堆積構造が見える。 基質は主にシルト質中粒砂。 シルト質砂礫の礫は主に径50cm以下の風化したGp・Grの角～亜角礫を含む。 礫率50～60% 基質は砂質シルトからなる。</p>	<p>礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 シルト質砂礫は主に東側に分布する。 西側のシルト質砂礫は礫混じり砂質シルト中に層状に含まれる。 明褐色～浅黄褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫混じり砂質シルトの礫は径5cm以下の風化したGp・Grの角～亜角礫。 礫は下部ほど細粒だが、含有量は多くなる。 一部に堆積構造が見える。 基質は主にシルト質中粒砂。 シルト質砂礫の礫は主に径50cm以下の風化したGp・Grの角～亜角礫を含む。 礫率50～60% 基質は砂質シルトからなる。</p>	<p>②層: 礫混じり砂質シルト: 明褐色～浅黄褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6)。礫は径5cm以下の風化礫。下部ほど細粒。 シルト質砂礫: 礫径50cm以下の亜角礫を含む。</p>	
スケッチ原図(正面壁面)	<p>礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 シルト質砂礫は主に下部に分布。上部は礫混じり砂質シルトが主体。 明褐色～明褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫混じり砂質シルトの礫は径5cm以下の風化したGp・Grの亜角礫。 一部に堆積構造が見える。 シルト質砂礫の礫は主に径30cm以下の風化したGp・Grの亜角礫を含む。 礫率15～60% 基質は砂質シルトからなる。</p>	<p>礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫 シルト質砂礫は主に下部に分布。上部は礫混じり砂質シルトが主体。 明褐色～浅黄褐色(7.5YR7/1～7.5YR8/6) 礫混じり砂質シルトの礫は径5cm以下の風化したGp・Grの亜角礫。 一部に堆積構造が見える。 シルト質砂礫の礫は主に径30cm以下の風化したGp・Grの亜角礫を含む。 礫率15～60% 基質は砂質シルトからなる。</p>		

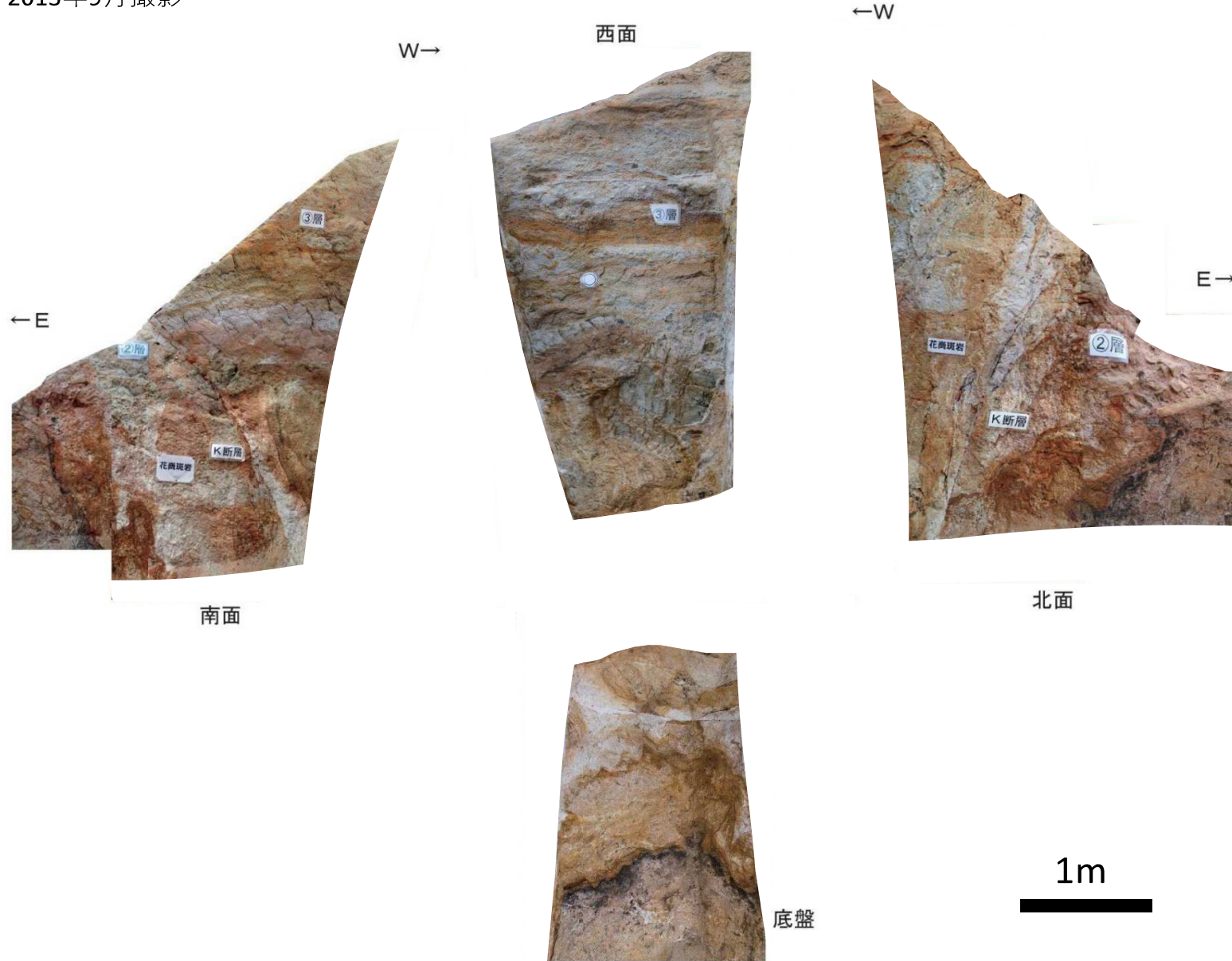
スケッチ原因⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート(D-1トレンチ 2-1ピット_③層の記載)

No.	スケッチ原因		報告書スケッチの記事	スケッチ原因(地層の性状に関する記事)から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由(スケッチ原因(地層の性状に関する記事)を適正化すべき記事内容としている場合は、それとの変更点)
	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	選定した記事内容	
	スケッチ原因図から正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	追加変更した情報が正しく転記されている <input checked="" type="checkbox"/>		
スケッチ原因図(北面下部)	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/2)。	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/6, 7.5YR8/2)。		
スケッチ原因図(北面上部)	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。 礫は主に径5cm以下の風化花崗斑岩の垂角礫主体。まれに15cm程度の礫を含む。 砂礫層をレンズ状に挟み、淘汰が悪い。	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/6, 7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。 礫は主に径5cm以下の風化花崗斑岩の垂角礫主体。まれに15cm程度の礫を含む。 砂礫層をレンズ状に挟み、淘汰が悪い。		
スケッチ原因図(南面下部)	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。 礫は径5cm以下の風化花崗斑岩の垂角礫主体。 砂礫層を挟み、淘汰が悪い。	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/6, 7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。 礫は径5cm以下の風化花崗斑岩の垂角礫主体。 砂礫層を挟み、淘汰が悪い。	礫混じりシルト質砂、橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/6, 7.5YR8/2)。基質はシルト、細～中砂主体。砂礫層をレンズ状に挟み、淘汰が悪い。礫は径5cm以下の風化花崗岩の垂角礫主体。径15cmのものもみられる。	・シルト層、シルト質砂層の挟みは局所的なもののため不採用とした。 ・礫径の最大礫35cmは局所的な性状のため記載しない。 ・色調(浅黄橙色)の記号を追加した。
スケッチ原因図(南面上部)	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。淘汰が悪い。 シルト質砂層を挟む。 礫は径2～5cmの風化花崗斑岩の垂角礫主体。まれに15cm(最大35cm)程度の礫を含む。	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/6, 7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。淘汰が悪い。 シルト質砂層を挟む。 礫は径2～5cmの風化花崗斑岩の垂角礫主体。まれに15cm(最大35cm)程度の礫を含む。		
スケッチ原因図(正面壁面)	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。シルト層、砂礫層をレンズ状に挟み、淘汰が悪い。 礫は径5cm以下の風化花崗斑岩の垂角礫主体。まれに径15cm程度のものも見られる。 ラミナが明瞭なところあり。	礫混じりシルト質細砂 橙～浅黄橙色、灰白色(5YR7/8～7.5YR8/6, 7.5YR8/2)。 基質はシルト、細～中砂主体。シルト層、砂礫層をレンズ状に挟み、淘汰が悪い。 礫は径5cm以下の風化花崗斑岩の垂角礫主体。まれに径15cm程度のものも見られる。 ラミナが明瞭なところあり。		

D-1トレンチ2-1ピット全体写真

150, 151のエビデンス (13/13)

2013年9月撮影

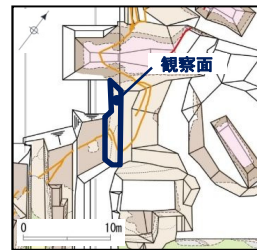
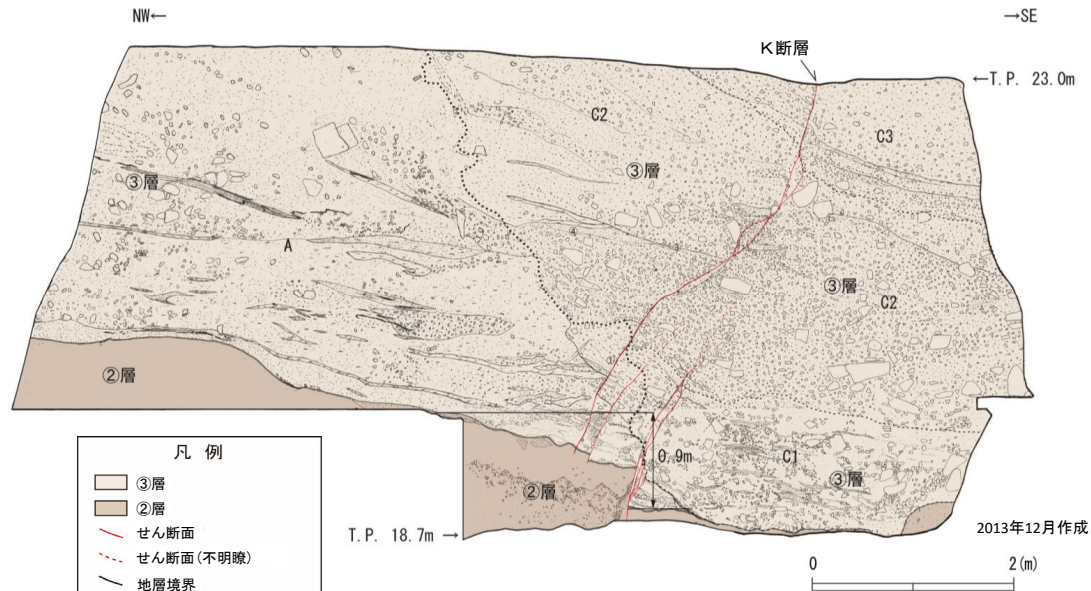
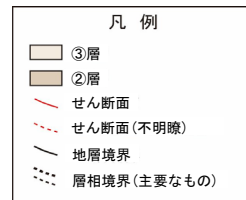


余白

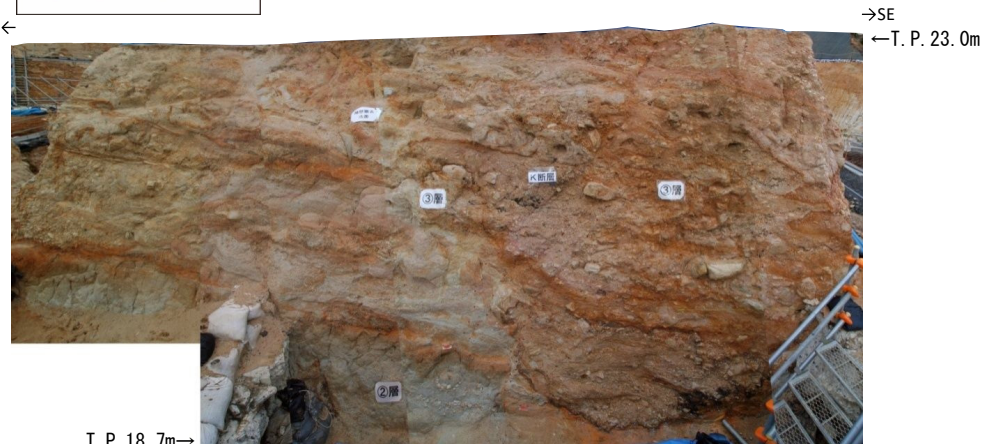
K断層の性状(擁壁撤去法面)

- ②層：礫混じりシルト質砂：褐灰色～浅黄橙色 (7.5YR6/1～10YR8/4)
基質はシルト、細～中粒砂であり、礫は径100mm以下の角～亜角礫主体である。全体的にやや軟質で北西側ほど硬質となる。
②層上限面の傾斜は、K断層の上盤側で10°程度で、下盤側でほぼ水平を示す。
- ③層
A層：礫・シルト混じり砂：浅橙色～浅黄橙色 (5YR8/3～10YR8/3)
礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～亜角礫主体である。
基質は細～粗粒砂主体であり、レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。
- C1層：砂礫：明黄褐色～にぶい橙色 (10YR6/6～7.5YR7/3)
礫率30～60%であり、レンズ状に砂層を挟む。
礫混じり砂質シルト：淡赤橙色～灰白色 (2.5YR7/3～7.5Y8/1)
基質は細～中粒砂であり、淘汰はやや良い。
礫は径40mm以下の風化を受けた角～亜角礫主体である。
- C2層：砂礫：にぶい橙色～明黄褐色 (7.5YR7/3～10YR6/6)
礫率30～60%であり、淘汰はきわめて悪い。
礫は径200mm以下の風化を受けた角～亜角礫主体である。
基質は中～粗粒砂であり、レンズ状に中～粗粒砂の砂層を含む。
- C3層：礫質砂：にぶい橙色～浅黄橙色 (5YR6/4～7.5YR8/3)
礫は径100mm以下の風化を受けた角～亜角礫主体である。
基質は中～粗粒砂で、淘汰はやや悪い。

- ① f : N26° E57° W
② f : N19° E48° W
③ b : N66° E14° S
④ b : N6° E12° E
f : せん断面
b : 層理面



調査位置図



2013年12月撮影

- D-1トレンチ擁壁撤去法面では、②層、③層を逆断層センスで変位させるK断層が認められる。
- ②層上面の鉛直変位量は、撓曲変形を含めて約0.9mである。

K断層の性状(擁壁撤去法面)

152 : ③層A層の色調修正

- D-1トレンチ擁壁撤去法面では, ②層, ③層を逆断層センスで変位させるK断層が認められる。
- ②層上面の鉛直変位量は, 撓曲変形を含めて約0.9mである。

②層: 礫混じりシルト質砂: 褐灰色~淡黄褐色 (7.5YR6/1 ~ 10YR8/4)
 基質はシルト, 細~中粒砂であり, 礫は径 100mm 以下の角~歪角礫主体である。全体的にやや軟質で北西側ほど硬質となる。
 ②層上面の傾斜は, K断層の上盤側で 10° 程度で, 下盤側でほぼ水平を示す。

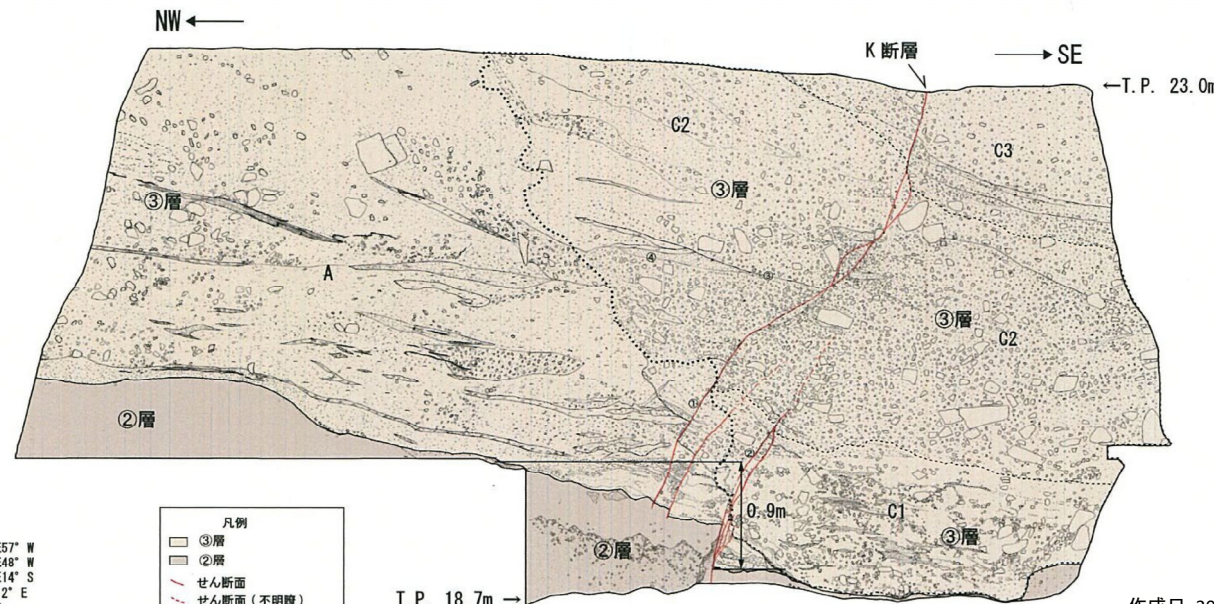
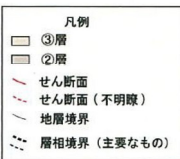
③層
 A層: 礫・シルト混じり砂: 淡橙色~淡黄褐色 (5YR8/3 ~ 10YR8/3)
 礫は径 20mm 以下の風化を受けた歪角~歪角礫主体である。基質は細~粗粒砂主体であり, レンズ状のシルト~シルト質砂を含む。

C1層: 砂礫: 明黄褐色~にぶい橙色 (10YR6/6 ~ 7.5YR7/3)
 礫率 30 ~ 60% であり, レンズ状に砂層を挟む。
 礫は径 200mm 以下の風化を受けた歪角~歪角礫主体である。礫混じり砂質シルト: 淡赤褐色~灰白色 (2.5YR7/3 ~ 7.5YB/1)
 基質は細~中粒砂であり, 淘汰はやや良い。
 礫は径 40mm 以下の風化を受けた歪角~歪角礫主体である。

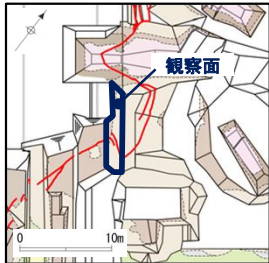
C2層: 砂礫: にぶい橙色~明黄褐色 (7.5YR7/3 ~ 10YR6/6)
 礫率 30 ~ 60% であり, 淘汰はきわめて悪い。
 礫は径 200mm 以下の風化を受けた角~歪角礫主体である。基質は中~粗粒砂であり, レンズ状に中~粗粒砂の砂層を含む。

C3層: 礫質砂: にぶい橙色~淡黄褐色 (5YR6/4 ~ 7.5YR8/3)
 礫は径 100mm 以下の風化を受けた歪角~歪角礫主体である。基質は中~粗粒砂で, 淘汰はやや悪い。

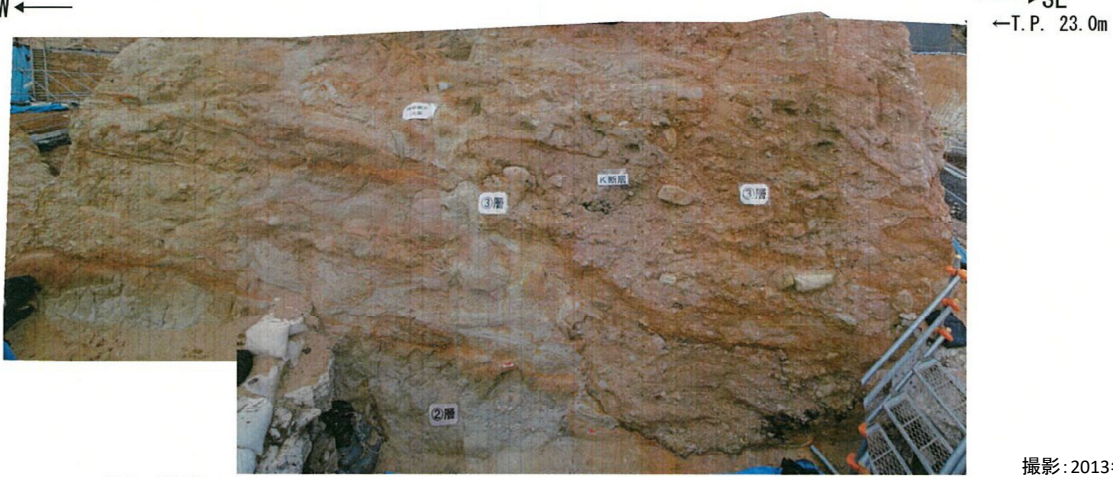
- ①: f: N26° E57° W
- ②: f: N19° E48° W
- ③: b: N66° E14° S
- ④: b: N6° E12° E
- f: せん断面
- b: 層理面



作成日: 2022年3月31日



調査位置図



T.P. 18.7m→

撮影: 2013年12月

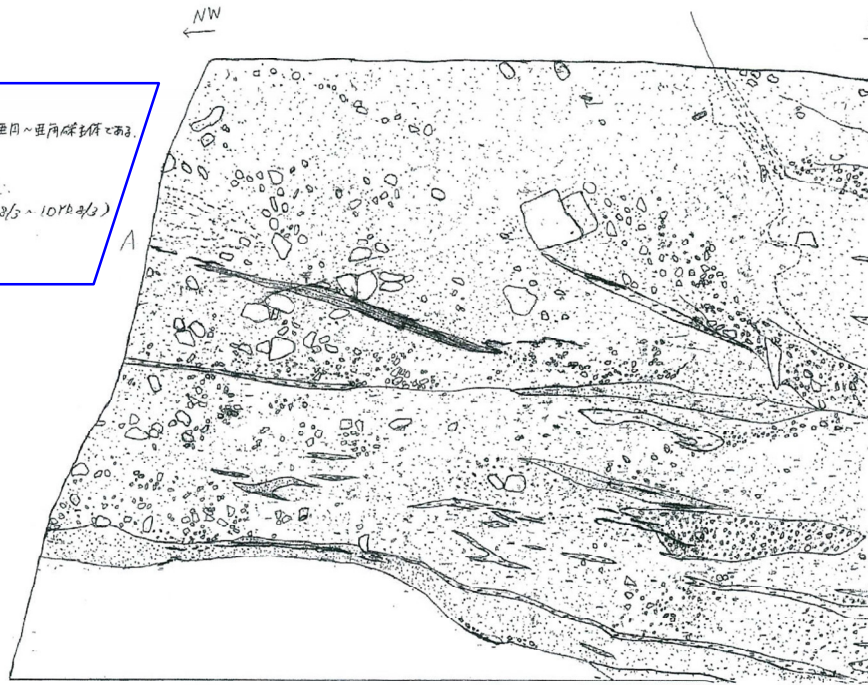
スケッチ名:D-1トレンチ 擁壁撤去① 1/20 スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
・観察面の対象箇所名
・観察面の枠
・縮尺
・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

○

スケッチ

A: 石炭・シルト混じり砂
砂は径20mm以下の風化を受けた亜角礫を伴う。
基質は細～粗粒の主相。粘り。
シルト状のシルト～シルト質砂を含む。
塊状色へ浅黄褐色 (5YR 8/5 ~ 10YR 6/5)
淡褐色



C2
C2: 砂礫
礫径30~40cm (塊状は約10cm)
石炭は石炭礫層の角～亜角礫を伴う。
径30~100mmの風化片礫。
よく粘り。
基質は中～粗粒の砂、粘り。
シルト状の中～粗粒砂の砂層を伴う。
褐色～明黄褐色
(7.5YR 7/5 ~ 10YR 6/5)
下位のA層を削り取った色調
と見ることができ、不適切な
色調と考へられる

②層: 礫混じりシルト質砂
基質はシルト。細～中粒砂
よく粘り。やや軟質。北西側ほど硬質化する。
②層上限面の傾斜角、北西側ではほぼ水平だが
南東に向くと約10°程度傾く。
褐色 (7.5YR 6/1)

作成日・確認日: 2022年3月28日
確認者: [Redacted]

D-1トレンチ 擁壁撤去① 1/20

スケッチ名：D-1トレンチ 擁壁撤去② 1/20 スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
 ・観察面の対象箇所名
 ・観察面の枠
 ・縮尺
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

○

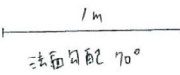
スケッチ

- 方位、傾斜角
- ① f: N33E57W ← NW
 - ② f: N26E48W
 - ③ b: N73E14S
 - ④ b: N13E12E

A: 石灰シルト混じり砂
 石灰は径20mm以下の風化を
 受けた粗角～亜角状玉状の砂。
 粘土は細～粗粒砂を併せ、
 シルトはシルト～シルト質の風化。
 淡褐色～淡黄褐色
 (5YR6/3 ~ 10YR6/3)

C3: 礫質砂
 礫は径100mm以下の風化を受けた、亜角～亜円砂玉状の砂。
 基質は中～粗粒砂。
 濁状はやや悪い。
 淡い褐色～黄褐色 (5YR6/3 ~ 7.5YR6/3)

C2: 砂
 礫径30～60mmあり。
 濁状は悪くはない。
 礫は200mm以下の風化を受けた
 角～亜角状玉状の砂。
 基質は中～粗粒砂。
 シルトは中～粗粒砂の砂を併
 せ。
 一部弱い葉理が認められる。
 下部のA層と、同じ大きさ
 の礫を併せ持つことか。不整合
 関係であると考えられる。
 淡い褐色～明黄褐色
 (7.5YR6/3 ~ 10YR6/3)



- S-1: せん断面
 概し連続性がある
- S-2: せん断面
 一部不明瞭
- S-3: せん断面
 一部不明瞭

C1: 石灰混じり砂質シルト
 基質は細～中粒砂であり、一部シルト混じり。
 濁状はやや悪い。
 多量あり。
 石灰は花崗岩、花崗斑岩で径40mm以下の風化を
 受けた粗角～亜角状玉状の砂。 淡褐色 (5YR6/3)

D-1 H-24 擁壁撤去② 1/20

作成日・確認日：2022年3月28日 確認者： [Redacted]

青枠：Aの色調に関する部分

2022
3/28

作成者

確認者

2022. 3. 28

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原因(第四系)											記事・スケッチを削除・変更・追記した理由			
			地質名	地質の特徴				スケッチ原因(第四系)			スケッチ原因(基礎岩)						
				・粒度構成、礫の層状・柱状・塊状、層理、層厚、層まり具合	・礫の風化	・含有物(有機質、頁岩など)	・その他、問題と買ひあつた点や特徴的な状況があれば、それらについて記載。	地層構造 地層構造の整合・不整合の程度が認定できる場合は、その程度も併せて記載。	地層構造 層理、層厚、層化	土質化など、埋積遺構・特異現象を色調示すもの	定向・傾斜 ・埋積構造やせん断面の定向・傾斜を記載。 ・その調査も代表する箇所での測定するもの。局所的に埋積や方向が変化している箇所では測定しない。	地質名	風化・変質		割れ目・せん断割れ目 ・地層中の系統毎の割れ目間隔、割れ目の深さ等の連続性・幅・長さ・向き、系統毎の代表割れ目の走向・傾斜、顕形、集線などを記載	色調	定向・傾斜 ・その調査も代表する箇所での測定するもの。局所的に埋積や方向が変化している箇所では測定しない。
	礫質砂 礫は径100mm以下の風化を受けた歪角一歪円礫主体である。 C3 基質は中一細粒砂。 埋法はやや悪い。 淡褐色～淡黄褐色 (5YR6/4～7.5YR6/3)	-	○	○	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-
	砂礫 礫径20～60cmであり、埋法はきわめて悪い。 礫は径200mm以下の風化を受けた角一歪角礫主体である。 C4 基質は中一細粒砂。 レンズ状の中一細粒砂の砂礫を含む。 一部割れ目埋まりが認められる。 淡褐色～淡黄褐色 (5YR7/3～10YR6/6) 下位のA層とは、斜り込んで埋積していることから不整合関係であると考えられる。	-	○	○	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-
	埋まり砂質シルト 基質は中一細粒砂であり、一部シルト混り。 C5 埋法はやや良い。 一部埋まりあり。 礫は花崗岩で径40mm以下の風化を受けた歪角一歪円礫主体。 淡褐色 (5YR6/3)	-	○	○	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-
	埋・シルト混り砂 礫は径20mm以下の風化を受けた歪円一歪角礫主体である。 A 基質は中一細粒砂主体。 レンズ状のシルト一シルト質砂を含む。 淡褐色～淡黄褐色 (5YR6/3～10YR6/3)	埋・シルト混り砂 礫は径20mm以下の風化を受けた歪円一歪角礫主体である。 基質は中一細粒砂主体。 レンズ状のシルト一シルト質砂を含む。 淡褐色～淡黄褐色 (5YR6/3～10YR6/3)	○	○	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	色調(淡褐色)と色調を示す記事(5YR6/3)が重複していない。埋法不良を補正し、色調を示す記事(5YR6/3)が重複していない。色調の書き間違いであると判断した。
③	b/N7E14S	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
④	b/N13E12E	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕部											記事・スケッチを削除・変更・追記した理由			
			破砕部区分 (Hc/Hd/H)	破砕部の性状 ・破砕部の種類 ・破砕部の物質 ・破砕部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も連続化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・埋積構造、埋込み構造、実質構造、崩壊など	断面区分 ・断面の傾斜・断面角・カクレーサイズ(実測できる場合)	破砕部 (実測できる場合)	最終移動係 (認定した場合)	系統	変位・変形量 ・埋積面に対して計測した変位・変形量	色調	定向・傾斜 ・その調査も代表する箇所での測定するもの。あるいは、歪角一歪円礫について傾斜角で測定する。					
⑤-1	せん断面 最も連続性が良い。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑤-2	せん断面 一部不明瞭。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑥-1	せん断面 一部不明瞭。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
①	f/N33E57W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
②	f/N26E48W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-

スケッチ名：D-1トレンチ 擁壁撤去③ 1/20 スケッチ

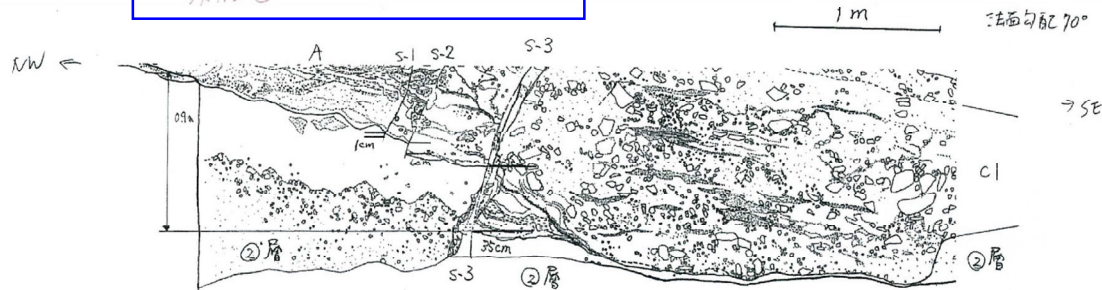
スケッチ原図に以下の情報が書かれているか
 ・観察面の対象箇所名
 ・観察面の枠
 ・縮尺
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

○

スケッチ

A: 礫・シルト混じり砂
 礫は径20mm以下の風化岩質4次亜角~亜角礫主体である。
 基質は細~粗粒砂主体。疎ら。
 シス状のシルト・シルト質砂も存在。
 ~一部は埋積構造が認められる。
 淡褐色~浅黄褐色(5YR8/3~10YR8/3)
 淡棕色

C1: 砂礫~礫混じり砂質シルト
 礫率30~60%。シス状の砂層には所々の発達した泥質シルト。
 礫は径40mm以下の風化岩質4次亜角~亜角礫主体である。
 砂礫の基質は中~粗粒砂、やや軟質。
 下部は砂質シルト主体、上部は礫混じり砂質シルト主体である。
 明黄褐色~灰白色(10YR6/6~7.5YR7/3)
 淡赤褐色~灰白色(2.5YR7/3~7.5YR6/1)



②層: 礫混じりシルト質砂
 基質は細~中粒砂。
 中~粗粒砂、やや軟質。
 礫は径100mm以下の角~亜角礫主体である。
 褐灰色~浅黄褐色(7.5YR6/1~10YR8/4)
 ③層上段面の傾斜はせん断面の土壁傾斜の
 10°程度、下段面については水平を示す。

S-1: せん断面
 ②層上面が逆断層面として約1.0m変位。
 S-2: せん断面
 ②層上面が逆断層面として約60cm変位。
 S-3: せん断面
 ②層上面が逆断層面として約35cm変位。

擁壁撤去③ 1/20

作成日・確認日：2022年3月28日
 確認者：[Redacted]

青枠：Aの色調に関する部分

作成日 2022/3/28 作成者 [Redacted] 確認者 [Redacted] 確認日 2022. 3. 28

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(第四系)											スケッチ原図(基盤岩)			
			地名	地質の特徴				地層境界	土壌化など	走向・傾斜	地名	風化・変質	割れ目・せん断割れ目	色調	色調	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由	
				・相対構造、層の厚さ、傾斜、線画、線画、線画、線画	・線の粗化	・含有物(有機質、貝殻など)	・その他 断面と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。										・地層境界の整合・不整合
C1	砂礫～礫混じり砂質シルト 厚さ20～60cm。 レンズ状に砂層を含む。レンズ状の砂層には所々粘土質の発達が見られる。 厚さは40cm以下の風化を受けた基岩・基岩主体である。 砂礫の基質は中～粗粒砂。 やや傾斜。 下部は砂質主体。上部は礫混じり砂質シルト主体である。 相対色色～土灰色(10YR6/1～10YR7/3) 淡黄褐色～灰白色(2.5YR7/3～7.5YR/1)	-	○	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	
A	礫・シルト混じり砂 厚さは20cm以下の風化を受けた基岩～基岩主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 A 層。 レンズ状にシルト～シルト質砂を含む。 一部で地層構造が発達する。 淡黄褐色(5YR6/3～10YR6/3)	礫・シルト混じり砂 厚さは20cm以下の風化を受けた基岩～基岩主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 A 層。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 一部で地層構造が発達する。 淡黄褐色(5YR6/3～10YR6/3)	○	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	色調(淡褐色)と色調を示す記事(5YR6/3)が整合していない。法面写真を確認し、色調を示す記事(5YR6/3)が正しい。色調の書き間違いであると判断した。	
B	礫混じりシルト質砂 基質は細～中粒砂 厚さは100cm以下の角～鈍角主体である。 相対色色～淡黄褐色(7.5YR6/1～10YR6/4) 断面上部の傾斜はせん断面の上部で10°程度。下盤側ではほぼ水平を示す。	-	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-		

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕部											
			破砕度区分 (Fracture)	破砕部の性状				内部構造	断層区分	破砕部	断層面	色調	色調	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
				・細粒部の種別	・破砕部の種別	・破砕部の性状	・破砕部の性状							
9-1	せん断面 断面上部が逆断層センスで約1cmの変位。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	
9-2	せん断面 断面上部が逆断層センスで約6cmの変位。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	
9-3	せん断面 断面上部が逆断層センスで約15cmの変位。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	

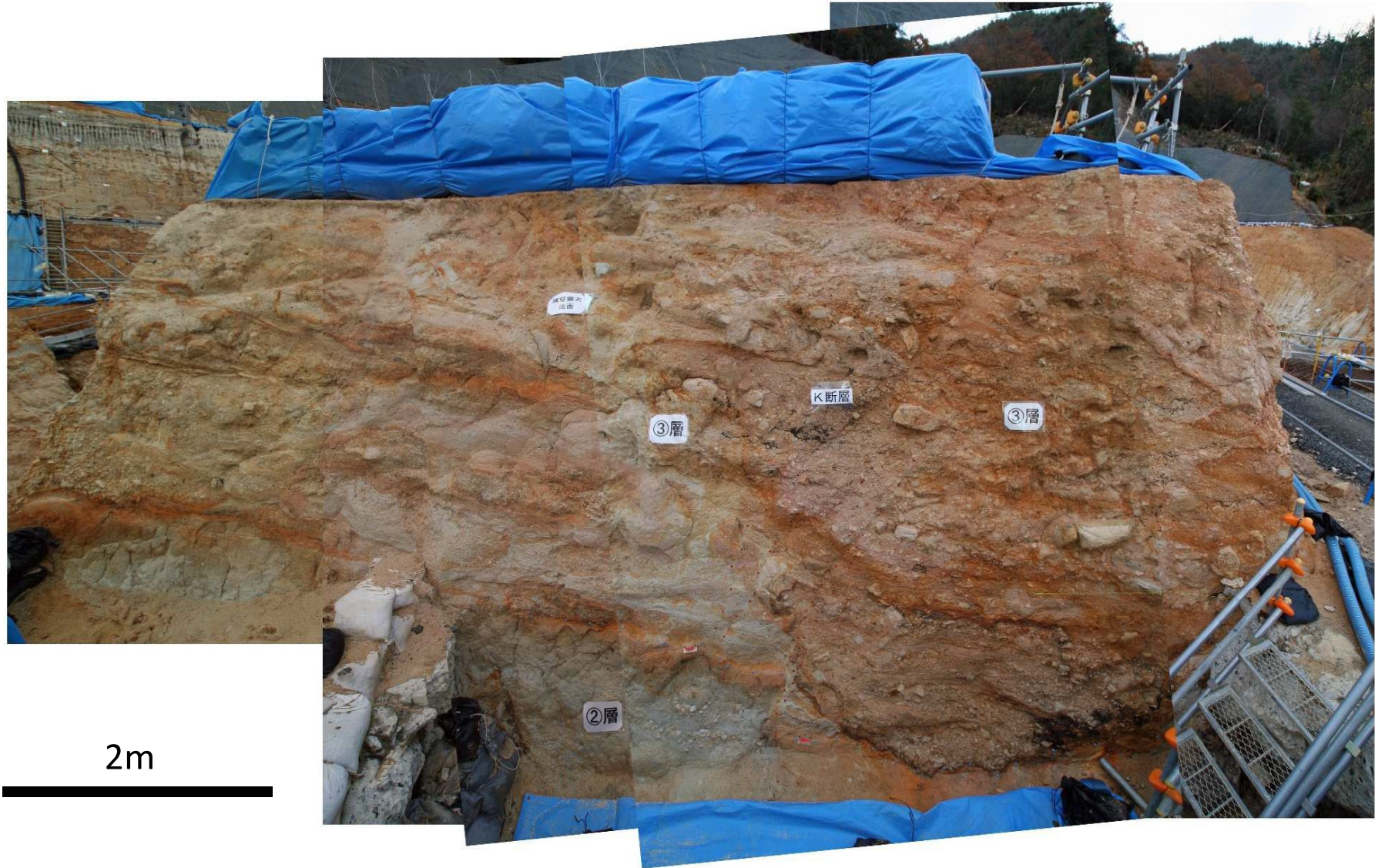
スケッチ原図⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート(D-1トレンチ 擁壁撤去法面_③A層の記載)

No.	スケッチ原図		報告書スケッチの記事	スケッチ原図(地層の性状に関する記事)から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由(スケッチ原図(地層の性状に関する記事)を適正化すべき記事内容としている場合は、それとの変更点)
	地層の性状に関する記事 スケッチ原図から正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	適正化すべき記事内容 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	選定した記事内容	
スケッチ原図①	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～垂角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 締る。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 浅橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3)	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～垂角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 締る。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 淡橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3)		
スケッチ原図②	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～垂角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 浅橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3)	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～垂角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 淡橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3)	礫・シルト混じり砂: 淡橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3) 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～垂角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体であり、レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。	・色調(浅橙色)と色調を示す記号(5YR8/3)が整合していない。観察面写真を確認し、色調を示す記号(5YR8/3)が正しく、色調の書き間違いであると判断した。
スケッチ原図③	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～垂角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 締る。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 一部で堆積構造が発達する。 浅橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3)	礫・シルト混じり砂 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～垂角礫主体である。 基質は細～粗粒砂主体。 締る。 レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。 一部で堆積構造が発達する。 淡橙色～浅黄橙色(5YR8/3～10YR8/3)		

D-1 トレンチ擁壁撤去法面写真

152のエビデンス (8/8)

2013年12月撮影



2m

K断層の連続性評価について

K断層の性状(原電道路ピット/ふげん道路ピット)

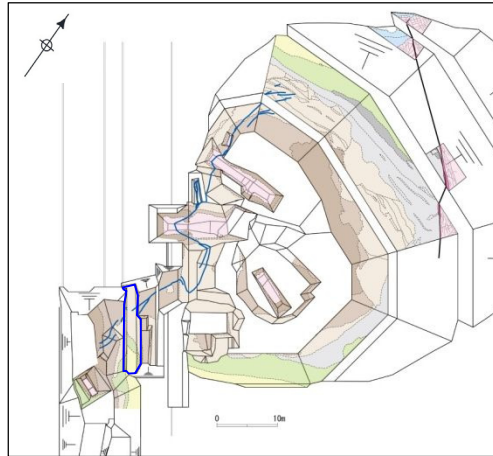
153 (原電道路ピット/ふげん道路ピット)

修正箇所：橙色枠

修正前

第536回審査会合
資料2 修正

- 原電道路ピット東向き法面部では、K断層は②層及びC層(③層)までの地層に変位を与えているが、その上位の地層であるD3層(③層)は変位・変形を受けておらず、下位のC層とは明瞭な傾斜不整合関係で接している。
- ふげん道路ピット東法面(上段)では、C層までの地層に変位・変形を与えているが、その直上に分布するD3層の基底には、原電道路ピット東向き法面部と同様、K断層による変位・変形は及んでおらず、D3層は下位のC層とは明瞭な傾斜不整合関係で接している。
- これらのことから、原電道路ピット及びふげん道路ピットにおいて、K断層はMIS6以前に堆積したD3層に変位・変形を与えていない。



調査位置図

- ⑧層：細礫・シルト混じり砂を主体とする。橙色(5Y6/6)。礫率5~10%で、礫は径2~4cm程度の垂角礫を含む。基質は、シルト質細砂からなり、細礫混じり砂質シルト、砂混じり粘土及び砂質シルトをレンズ状~層状に挟む。
- ⑦層：礫混じり砂質シルト~砂礫からなる。明赤褐色~橙色(5YR5/6~7.5YR7/6)。礫率7~40%程度で径3~40cm程度の垂角~垂円礫からなる。基質は、シルト混じり細~中粒砂からなる。下部ほど礫の含有率が多い。
- ③層(C, D3)：砂礫及びシルト混じり細粒砂を主体とする。橙色~明褐色(7.5YR6/6~7.5YR5/6)。礫率15~40%で径1~10cm程度(最大径40cm)の角~垂円礫からなる。基質は、シルト混じり細粒砂からなる。
- (A, B)：砂礫を主体とする。浅黄色(2.5Y7/3)。礫率20%程度で径1~7cm程度(最大径25cm)の垂角~垂円礫からなる。基質は、シルト混じり細粒砂からなる。
- ②層：細礫・砂混じりシルトを主体とする。灰白色(2.5Y7/1)。礫率3~5%で径5cm以下の角~垂角礫を含む。基質は、シルト混じり細粒砂からなり、砂層をレンズ状に挟む。

- ⑤ f: N9° E74° W
- ⑥ f: N5° E64° W
- ⑦ f: N25° E70° E
- f: せん断面

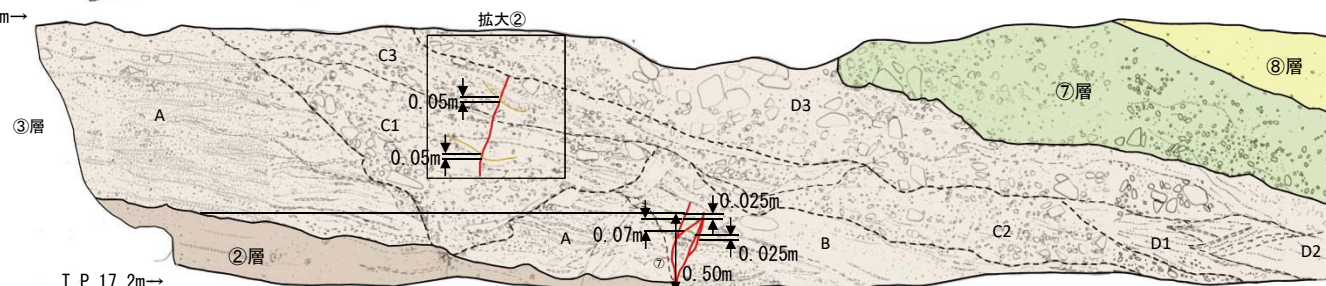
原電道路ピット東向き法面



原電道路ピット島状頂盤部(T.P.19.4m)



T.P. 19.4m→



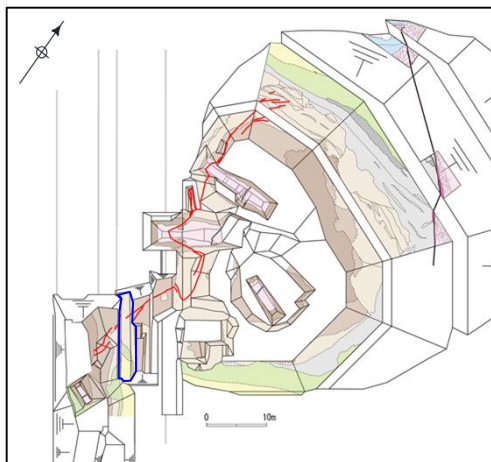
ふげん道路ピット東法面(上段)

2015年7月作成

凡例

⑧層	⑦層	③層	②層
せん断面	地層境界	層相境界(主要なもの)	





調査位置図

- 原電道路ピット東向き法面部では、K断層は②層及びC層(③層)までの地層に変位を与えているが、その上位の地層であるD3層(③層)は変位・変形を受けておらず、下位のC層とは明瞭な傾斜不整合関係で接している。
- ふげん道路ピット東法面(上段)では、C層までの地層に変位・変形を与えているが、その直上に分布するD3層の基底には、原電道路ピット東向き法面部と同様、K断層による変位・変形は及んでおらず、D3層は下位のC層とは明瞭な傾斜不整合関係で接している。
- これらのことから、原電道路ピット及びふげん道路ピットにおいて、K断層はMIS6以前に堆積したD3層に変位・変形を与えていない。

- ⑧層: 細礫・シルト混じり砂を主体とする。橙色(5YR6/6)。礫率5~10%で、礫は径2~4cm程度の亜角礫を含む。基質は、シルト質細砂からなり、細礫混じり砂質シルト、砂混じり粘土及び砂質シルトをレンズ状~層状に挟在する。
- ⑦層: 礫混じり砂質シルト~砂礫からなる。明赤褐色(5YR5/6)~橙色(7.5YR7/6)。礫率7~40%程度で径3~40cm程度の亜角~亜円礫からなる。基質は、シルト混じり細~中粒砂からなる。下部ほど礫の含有量が多い。
- ③層 (C,D): 砂礫及びシルト混じり細砂を主体とする。橙色~明褐色(7.5YR6/6~7.5YR5/6)。礫率15~40%で径1~10cm程度(最大径40cm)の角~亜円礫からなる。基質は、シルト混じり細粒砂からなる。
(A,B): 砂礫を主体とする。浅黄色(2.5Y7/3) 礫率20%程度で径1~7cm程度(最大径25cm)の亜角~亜円礫からなる。基質は、シルト混じり細粒砂からなる。
- ②層: 細礫・砂混じりシルトを主体とする。灰白色(2.5Y7/1) 礫率3~5%で径5cm以下の角~亜角礫を含む。基質は、シルト混じり細粒砂~砂混じりシルトからなり、砂層をレンズ状に挟在する。

- ⑤:f:N9° E74° W
- ⑥:f:N5° E64° W
- ⑦:f:N25° E70° E
- f: せん断面

